

(2) 북일간의 수교를 바라보며

일제강점 피해와 관련된 청산문제는 남북의 공통피해를 찾아 아픔을 치유하는 과정이며 민족공동체를 복원하는 통일사업이다. 그럼에도 불구하고 한국정부는 냉전시기에 이러한 민족문제를 정권의 문제로 격하시켜 버렸고 이를 일본은 이용하여 어부지리를 얻었다. 이러한 과오를 북측이 다시 반복하여서는 아니 되며 일본 역시 북측정권의 약점을 다시 이용하여서는 아니 된다. 이런 차원에서 한일협정관련문서의 공개를 가로 막는 일본정부의 태도는 비난 받아 마땅하다. 따라서 한일협정 체결에 이른 모든 문서를 공개하여 앞서 논의된 제 문제에 대해 진실을 밝히고 해결의 위한 공론의 장을 만들어야 할 것이다. 아울러 북일간의 교섭이 타결되고 협정이 가사 체결되더라도 이것은 통일이 될 때까지 현재 북측정권이 지배권을 행사하는 부분에 대한 것이며 잠정적인 것임을 명확히 하고 위 협정에 부수하여 통일 후에 수정되어야 할 부분에 대해 그 근거를 밝혀 놓아야 할 것이다.

아울러 피해자의 피해의 심각성과 절박성을 고려하여 피해자 구제와 관련된 중대인권침해부분에 한정하여 남북이 피해자와 함께 협상단을 만들어 통일 후에도 수정할 필요가 없는 국제법과 조리에 맞는 해결 방안을 만들어 내어야 할 것이다. 이는 유엔을 비롯한 국제기구에서도 시급한 해결을 요구하고 있다는 점에서도 전향적으로 검토되어야 할 것이다. 일본측으로서도 남북분단을 통해 어부지리를 얻는 것이 결코 일본의 장래를 위해서 도움이 되지 않는다는 인식을 가짐과 아울러 중대한 인권침해에 대해서 국제법과 인도주의에 맞는 국제적 의무를 다하는 것이 일본헌법에 명시된 바와 같이 일본이 국제사회에서 명예로운 지위를 찾는 첫걸음이 된다는 것을 잊지 않기를 바란다.

韓日協定の問題点と改正の方向

弁護士 崔奉泰

1. 問題提起

我々南側は、20世紀初日帝の強占期を経て1965年日本との基本条約と請求権協定を結び日本と関係正常化した。通常、関係正常化というのは、過去の歴史の部分で一段落がつき、日本との間で未来の足掛けになるようなものがあってはならないのが常識である。

しかし現在、日本、アメリカ、そして南で、日帝による被害者たちは日本政府と日本企業を相手にした裁判が相次ぎ行なわれている。ソウルの日本大使館前では元慰安婦たちの水曜デモが600回を超え、毎週ギネスブックを更新している状況である。また、毎年日本の歴史教科書歪曲により日韓関係が悪化している。

近頃侵略戦争の象徴となっている靖国神社に日本の首相をはじめ政治家たちの参拝が相次ぎ、日本政治家の靖国参拝が毎年慣例になるのではないかという憂慮をせざるを得ない。

このような状況の根本的な原因はどこにあるのか。それは侵略戦争を行った日本がその戦犯勢力を清算しなかったことに主な原因があるだろうが、わが南の政府が日本と1965年の関係正常化をする際に過去の歴史に対する歴史認識と被害補償と関連した部分で日本との明確な認識の一致を得られなかったことで起因するのが大きいと見ている。1965年韓日協定(韓日基本条約および韓日請求権協定の両者を包括する概念として用いる)締結の際両国間のきちんとした協定にできなかったことと協定の締結以後にも便宜的な解釈を通じて方便的に対応してきたところにその問題の根源がある。

すでに知っている通り、韓日協定は両国の解釈上大きな不一致があったため調印の効力がないのではないかという批判まで成立当時からあった。よって韓日協定を結び日本との関係正常化したというがしかし、真の意味での関係正常化を成せなかったのが現実であり、このような葛藤が東北アジアに新たな緊張の要因に発展する危険要素となっている。したがって韓日協定に問題があるならその問題を正直に認めその解決方法を探すのが東北アジアの平和を思う人々の緊急な課題だと思われる。下記ではいわゆる韓日協定のなかの法律的部分に限定し、過去の清算と関連してどんな問題点があるかを照らし、その代案を模索してみよう。

2. 韓日協定において日韓の根本的不一致点

(1) 韓日基本条約における韓国政府の管轄権および地位との関連条項

韓日基本条約第3条に大韓民国政府は国際連合総会の決議第195号(Ⅲ)に明示された通り、韓半島において唯一の合法政府であることを確認するとなっている。そしてこの条項について日本側は基本関係条約の適用範囲を決めたわけではなく、単に韓国政府の性格を明らかにしたに過ぎないと主張しているが、韓半島においての唯一の合法政府の確認の意味について韓国側はその解釈が異なってきた。例えばイ・ドンウォン元外務部長官は国会「大韓民国は韓半島において唯一の合法政府だ」という事実を日本政府が正式に基本条約で認めた」と答弁したのである。(第48回国会会議録第2号、国会事務処、1965. 2. 27) またこのような日本の基本条約についての精神は日本が将来どのような外交関係においても北との関係を結ばないことを公約したということを受け、日本国会でその約束についての追及があり、よって上の第3条の解釈について合意の議事録または交換公文がなかったのは完全な合意に至ったためだといった。

ならばこの場合現在進行中である北と日本の国交正常化の前提として韓日基本条約の第3条と関連して韓日の間何の修正もなしにそれが可能だったのかという根本的問題が提議できる。

ある人は国際連合総会の決議第195号(Ⅲ)で、韓国政府の管轄権が及ぶ範囲は38度線以南に限定したと主張しているが、上の決議をそのように解釈するのが妥当であるかどうか疑問であり、仮にそのように解釈する場合、上の基本条約第3条の解釈を韓半島での唯一の合法政府が大韓民国だというのが主な内容であり、その一つの根拠として上の決議を上げることに過ぎないと見るのが自然である。すなわち基本条約第3条の論議の中心は末尾の韓半島での唯一の合法政府だという部分であると思われる。この場合の韓半島とは38度線以北を除外したと解釈されない。

それだけではなく、仮に上の国際連合総会の決議を38度線の南側に限定したとしたら、上の決議は法的拘束力がないのにも関わらずこれを条約に引用しその効力範囲を制限できるというのか、さらにその場合にもその文の「総会の決議範囲内において」とか、末尾の唯一の合法政府の範囲を制限する制限語句は必ずあるべきであるが、制限語句はないで、英語の表現も as になっているだけだ。さらに韓日協定締結当時、38度線の北側の江原道の場合韓国政府が管轄権を行使して上の部分に関しては国際連合総会会議によって合法性が認定されない地域に対しても韓国政府が韓日協定を結んだというのか、結ばなかったのであれば上の地域については誰が日本政府と協議する資格があるのか、根本的疑問が提議できる。何より韓日協定には韓国政府の支配権が拡張あるいは縮小される場合を予想した一体の修正条項あるいは廃棄条項がない。よって韓日協定の上の条項を韓半島の一部としてみて、全体を意味したの

ではなかったという日本政府の主張は説得力がない。

したがって以後北と日本間の国交正常化のプロセスのなかで韓日基本条約の上の条項の修正は要らないのかどうか、必要な場合韓日基本条約に修正あるいは廃棄条項がないのにどうまとまるのか、また以後南北の統一後成立する政府と現在の韓日協定あるいは進行中の北と日本との協定の関連性はどうなるのかを明確にしなければならぬ。

一方、平壤で発表された「日朝平壤宣言」をみれば韓日基本条約と相容れない多くの問題点が見られる。例えば韓日基本条約には過去の清算と関連した何の表現もないが、上の宣言では「日本側は過去の植民地支配によって朝鮮人たちに多大な損害と苦痛を与えたことの歴史的事実を謙虚に受け止め痛切な反省の心から謝罪の意を表明する」として日本側の学者からこれは韓日条約の立場を事実上放棄したことだと指摘されている実情である。それは既存の韓日協定をめぐる不一致をどのようにして統一するかという多い課題を残していることになる。

同時に韓日協定当時の交渉の根拠としてよく1951年のサンフランシスコ講和条約を国際規範としてあげている。しかし韓国は上の講和条約の署名国でもなく、北側もやはりサンフランシスコ講和条約の秩序内に編入されることに何の根拠がない以上日朝間の交渉の根拠をどこで探すかも問題でありカイロ宣言やポツダム宣言をその根拠に出来るかが検討されるべきだ。

(2) 韓日基本条約第2条のもはや無効条項

韓日協定締結の際は勿論現在進行中である日朝間の国交交渉で最も対立しているのが両者間の日帝の植民地支配に関する歴史認識の部分である。

大韓民国と日本間の基本関係に関する条約第2条によれば、「1910年8月22日およびその以前の大韓帝国と大日本帝国間に締結されたすべての条約および協定がもはや無効であることを確認する」という条項があるがこの条項が無効になる時点と関連して韓日両国の政府間の主張は一致していない。日本の主張通り旧条約が締結当時有効だったという立場を取るなら、その無効または実効の時点が問題となる。

日本政府は主に1948. 8. 15韓国政府が成立した時から旧条約が無効になったと主張するが、北の政府の場合1948. 9. 9成立したことを考慮したら旧条約が韓国との関係では1948. 8. 15を起点に、北との関係では1948. 9. 9を起点にして無効だということか、一つの旧条約が地域によって分離無効にできるのかという根本的問題が台頭する。

一方サンフランシスコ講和条約発効によって旧条約が無効となるならサンフランシスコ講和条約発効によって旧条約が無効になるならサンフランシスコ講和条約の発効以前の1948年8月15日樹立した大韓民国の国際法上の地位が何かという

問題が発生する。

それだけではなく、何より日帝植民地支配下、統治中日本国籍を持った日本国民の国籍問題、すなわち日本国籍法によって当時韓国および北側に住んでいる国民の日本国籍が合法的に離脱できたかが問題になる。日本国籍法には事実上の国籍離脱を認定するどんな条項もないことから国籍法のどんな条項によって国籍離脱になったのかが疑問である。日本に居留する在日同胞の場合サンフランシスコ講和条約発効日をこの国籍喪失の基準とみるが、先ず、日本国籍法と整合性の問題があるだけではなく、サンフランシスコ講和条約発効日以前に韓半島地域の住民たちに日本国籍があったと主張するなら韓国戦争は日本国民の内戦であったというのか、また二重国籍状態がサンフランシスコ講和条約発効の時まで持続したのかが疑問だ。

よって旧条約の無効と関連して締結当時には有効だったという日本側の主張が認められるためにはこのような根本問題が解決されるべきだ。

仮に日本側の旧条約有効性を主張し、これによって韓日協定が締結されたとしたら、わが大韓民国政府は1919年3・1運動で成立した臨時政府の正統性を継承したというわが憲法に宣言されている通り、憲法の価値体系の下でみた場合、これを否定するの主張の政府と憲法に違反する内容で結んだ条約であり、これは結局違憲が条約となって、わが憲法の秩序からその効力を認定するのは元々不可能なものとなる。もし日本政府の主張が事実であるなら上の条約に関しては憲法裁判を通じて違憲性が判断されるべきであり、違憲以後の韓日協定は再締結されるという問題が発生する。

(3) 韓日請求権協定の完全最終解決確認条項と請求権主張禁止条項

すでに知っている通り、韓日請求権協定第2条1項の完全最終解決確認条項と3項の請求権主張禁止条項の解釈と関連し、この内容および範囲について日本政府と韓国政府は互いに異なる解釈をしてきていて、各政府もその主張が一貫していない。臨時雄弁的で恣意的解釈で混乱をもたらしている。

このような臨時雄弁的で恣意的解釈は主に日本政府によってなされている。それはサンフランシスコ講和条約で放棄した原爆被害者など自国民のアメリカ政府に対する保護義務および放棄された在外日本国民の財産権に対する補償要求についてその責任を回避しようとした過程から始まったことだ。すなわち国家と国家間に結んだ協定によって個人の権利は消滅しないという論拠をあげてきたのであり、これが韓日請求権協定でも幾度も確認されてきたのだ。そのため韓日請求権協定で消滅したのは政府の外交保護権だけであり、被害者たちの権利が消滅したわけではないことになるが、このような主張が法廷あるいは言論の中で一貫していないためその解釈をめぐっての争いが続いている（法廷では被害者の権利も消滅させたとしばしば主張している）

このような事態を考慮し、韓日請求権協定第3条では本協定の解釈および実施に関

する争いは先ず外交上の経路を通じて解決し、外交的経路を通じて解決できなかった事項に対しては仲裁で解決するようになっている。しかし韓日両政府はこれを回避し法的に不明確な状況を助長している実情である。それだけではなく、このような問題を解決するためには韓日協定と関連した文書が公開され検討されるべきだ。しかし日本政府はこのような文書の公開が日朝間の交渉に悪影響を及ぼすという理由で韓国政府に文書公開をしないように要請していて、これに同調した韓国政府が結局韓国の日帝被害者たちから提訴されている状況である。

外交的経路および仲裁を通じて解決すべき事項としては先ず、上の条項が①外交保護権だけの放棄なのか、個人的請求権の消滅なのかに関する部分、②在日同胞、韓太居住の被害者、浮島丸被害者、慰安婦被害者等の被害類型に対する適用部分について両国の確実な立場を明らかにし、それによって解釈上の争いがある場合、これを迅速に解決すべきだ。

3. 解決方向

(1) 核心的考慮要素

韓日間の過去の清算および基本関係設定は国際法と条理にあわなければならない。合わせてこれ以上過去のことが韓日間の未来の足掛けとなってはならない。その点で先ず韓日協定が南北の分断による戦争後、冷戦状況を利用したことを韓日両政府が特に、日本の方がそれを認めなければならない。これが韓日基本条約の第3条の解釈基準になるべきであり、日朝間の交渉が進められている以上、修正または廃棄されるべきだ。

そして日本政府は大韓民国の憲法の秩序を認めない結果をもたらす日帝支配の旧条約が当初は有効であったという立場を維持してはならない。もし主張する場合は発生する問題点を十分認識すべきである。

韓日両政府は韓日請求権協定の完全最終解決確認条項と請求権主張禁止条項の趣旨についてこれがどんな意味を持つのかを両国民に明確に説明し、外交保護権の放棄、または実体的請求権の消滅についての責任主体を明確にし、それによる代償措置を憲法の秩序から取り、また適用範囲から漏れた被害について追加の協商があるべきだ。

にもかかわらず、韓国の大統領が日本政府に対し金銭的補償要求をしないという趣旨の発言をしたことがあるが、これがどんな権限を持った状況でどんな範囲の被害についてそうなのかを明らかにしなければならない。このように韓国はすでに日本に対し補償請求をしないと闡明したため、禁反言の原則（estoppel）によって一法的責任認定および謝罪、真相究明、責任者処罰要求などは別として一補償関連の外交保護権行使は不可能であるという指摘についてはそれへの立場を明確にすべきである。特に

2004年2月韓国国会では日帝支配の下の強制動員被害真相究明特別法が通り、このような真相究明のためには日本政府との協調が絶対的に必要な状況であるにもかかわらず日本政府もやはり資料の公開が金銭的補償問題へと拡大化することを恐れていることも共に考慮されるべきである。

一方、日本政府は国会等で度重なる個人の実体的権利認定主張について明確な立場を明らかにし、合わせて韓国政府または被害者たちの委任を受けた第三者が協商を要求する場合、それに応えるかどうかを明確にすべきである。個人の実体的権利を認めながら、それを日本の司法の判断へ任せるのは被害者たちが高齢であることと健康状態などの被害者の状況を考慮した時に非人道的であり不当であるからだ。

よって現実的代案としてはこの部分と関連してドイツとフランスの間で最終的妥結を宣言した1960年の補償条約があったにも関わらず両国の間で1981年協定を再び「独仏理解増進財団に関する出捐協定」という名称でつくった事実も先例となるだろう。この場合必ず企業の責任解除と関連した規定をつくり企業の参加を督促すべきである。

(2) 日朝間の修交をみて

日本支配の被害と関連した清算問題は南北が共に受けた被害を探しその痛みを治癒する過程であり、民族共同体を復元する統一事業である。それにも関わらず韓国政府は冷戦期にこのような民族問題を政権の問題として格下げしてしまい、これを日本は利用し漁夫の利を占めた。このような過ちを北は繰り返してはならない。そして日本もやはり北の政権の弱点を利用してはならない。このようなレベルで韓日協定関連文書の公開を塞いでいる日本政府の態度は非難を受けて当然である。よって韓日協定の締結に至るまでのすべての文書を公開し、前で議論した諸問題について真実を明らかにし解決のための公論の場をつくるべきである。合わせて日朝間の交渉が妥結し協定が解決されたとしてもこれは統一するまで、現在の北の政権が支配権を行使する部分に対することであり、暫定的ものであることを明らかにし上の協定に付随し、統一された後に修正される部分についてその根拠を明らかにしなければならない。

そして被害者の被害の深刻性と切実さを考慮し被害者救済と関連した重大な人権侵害の部分に限り南北の被害者と共に協商団をつくり統一の後にも修正する必要のない国際法と条理にあう解決案をつくるべきである。これは国連を始め国際機構でも追い迫った解決が要求されているというところから全的に検討されるべきである。日本側も南北の分断という漁夫の利を占めることが決して日本の将来のためにならないことへの認識を持つと同時に重大な人権侵害に対して国際法と人道主義に合う国際的義務を果たすことが日本憲法に明示されている通り、日本が国際社会で名誉ある地位を採す一歩になるということを忘れないでほしい。

(번역 : 김경윤)

名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟

名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会

共同代表 寺尾光身(TERA0 Terumi)

事件の概要

前大戦末期、日本は朝鮮で、「日本に行けば女学校に通わせてもらえる、お金も稼げる」とだまし、国民学校(現在の小学校)を出たばかりの幼い少女たちを、日本に連れてきて働かせた。三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所道徳工場にも、このような少女約300人が連れてこられた。日本では、外出も制限され、十分な食事も与えられないまま厳しい労働に明け暮れ、女学校の代わりに戦意高揚の歌を習い、内鮮一体が泣く民族差別の日々だった。原告の一人は労働災害で指を切り落とした。1944年12月の東南海大地震では6人が命を落とし、また空襲で恐ろしい目にも遭った。給料を支払われることは一切無く、敗戦後無一物で故国に帰された。少女らは、皇民化教育によって、内鮮一体の理想を信じ込まされ、日本に対する素朴な信頼と憧れを抱いていた。被告らは、こうした少女らを利用し、そして裏切り捨て去った。

しかも、帰国後、少女らは思いもよらぬ新たな苦難に直面させられた。被告国が膨大な数の若い女性を軍「慰安婦」として連行して朝鮮半島を恐怖に陥れた末、大戦末期、同様の少女らを勤労挺身隊として連れ去ったため、被害国韓国では、勤労挺身隊と軍「慰安婦」を区別することは不可能な状況にあった。このため、原告は、貞操を捨てた女との烙印を押される恐怖に怯える人生を余儀なくされた。原告は、軍「慰安婦」被害者と同様に、自らの被害体験を隠し続けるよりほかに、結婚できたとしても何かの折りに過去を周囲に知られ、幸せな家庭は無惨にも破壊された。被告国と三菱が、軍「慰安婦」と勤労挺身隊の加害事実の解明と公表を意識的に怠り、加害責任を明確にすることなく放置し続けたため、人生を奪われるに等しい被害を受け、今なお烙印を押されることに怯える深刻な苦しみの中にある。原告は、すでに70才の高齢に達し、このままでは死ぬに死に切れないと、謝罪と補償を求めて提訴に踏み切った。その背後には、被害者であると名乗りたくても名乗ることのできない大勢の方がたがおられることも重たい事実である。

裁判の経過

裁判の中で、被告国と三菱は一貫して事実認否を拒んできた。また、国は公権力行使による被害に責任を負わないという、いわゆる国家無答責の法理を振りかざし、三菱は当時と今では別法人だから責任をとる義務は無いと言い、そして国・三菱と

も、時効や除斥期間を盾に謝罪も補償も拒んでいる。証拠を隠し、あるいは処分することは、はなはだ不誠実な態度である。国家無答責に合理性はない。三菱は 1884 年創業以来の歴史を誇りにしており、当時とは別法人との主張は矛盾している。時効や除斥期間の適用は正義と公平に反する。老境に達した原告が現在もなお直面している被害を救済しようとしなないのは、人道に背くものだ。

人間は他人に被害を与えたら、謝罪し補償することが常識である。ましてや、国民を代表する国、日本を代表すると自負する企業なら、当然、そうすべきである。

正しい解決

被害者が自分の母であり、妻、姉妹、あるいは娘であったら、どう感じるだろう。被害者の無念はいかばかりか、容易に思いやることができよう。敗戦から、今年で足掛け 60 年。60 年は長過ぎる。被害者は高齢になっている。解決は急を要する。既に幾つかの戦後補償裁判で和解が成立し、また去る 3 月 26 日には新潟地裁が、国や企業に責任ありと認定し、賠償を命じる判決を出している。

実際に行なった加害をひたすら隠し、謝罪補償を拒み、今なお続く被害を放置することは、結局、日本の尊厳をも傷つけるものである。ドイツの国と企業は既に謝罪と補償を行なっており、また、アメリカは、太平洋戦争時、日本人移民だけを隔離収容した人種差別に対して、謝罪し補償している。原告の被害は、現在の被害でもあり、事態は切迫している。私たちは、日本に道徳心に欠けた国になって欲しくない。また、アジアの青年と交流する日本の若者たちに恥を搔かせたくない。日本が国際社会の中で名誉ある地位を占め、誇ることができる日本を子孫に手渡したいと、切に念願するものである。

被告国と三菱は、過去と現在の加害の事実と被害を速やかに認め、明確な謝罪と補償に踏み切れ

裁判所は、歴史に残して恥じない公正な審理を行い、一刻も早く過去及び現在の被害を救済せよ

市民の皆さん、原告の皆さんに心からの支援を

미쯔비시 재벌에 의한 강제련행·전시로동 노예제에 대하여

竹内康人 (다계우찌 야수히도)

시즈오카의 조선인 강제련행을 조사하는 사무국장

들어가는 말

지금까지 시즈오카현의 사회사, 시즈오카의 강제련행, 하마마쯔의 항공독가스전부대와 파병된 폭격부대에 의한 중국에서의 공중폭격 등을 조사해왔다. 또한 강제련행지의 일본 전국지도와 련행상황의 일람이나 사망자 명부를 작성하였다. 그 작업한 속에서 미쯔비시재벌의 련행이 일본 전국 각지에 미친다는 것을 알았다. 이는 그 개략이다.

미쯔비시재벌은 미쯔이재벌과 함께 일본의 제국주의 전쟁을 지탱한 콘체른이다. 미쯔비시재벌의 주요생산은 광업과 중공업이 짝어지고 있었다. 그 현장에 전시하 많은 조선인·중국인이 련행되었다. 또한 아세아 각지에서의 침략전쟁과 그로 인한 점령지의 확대에 따라 미쯔비시는 각지에서 자원략탈을 지향하여 사업하였다. 거기서는 현지의 민중이 전시동원되었다. 전시하 일본으로 미쯔비시재벌 관련으로 련행된 조선인은 10 만 명을 넘는다고 보아진다. 아시아 각지에서 미쯔비시가 동원한 사람들도 허다하다.

련행지에서 사망해도 그 련락이 없는 채 유골이 지금도 현지에 남아있는 것도 있다. 최근에는 규슈의 미쯔비시 나마즈탄광, 홋카이도의 미쯔비시 비바이탄광에서의 사망자의 미반환의 유골이 발견되어 있다.

미쯔비시와 미쯔이에 의한 련행의 상황을 밝히는 것은 전시하의 강제로동·전시로동 노예 제의 실태를 밝히는데 있어서 빼놓을 수 없는 작업이다.

1. 미쯔비시재벌에 의한 강제로동의 전반적 특징

전시하의 로동력부족으로 미쯔비시는 일본에서의 광업〔석탄·동 기타의 광산물 자원〕, 중공업〔조선·비행기 생산 등〕, 지하공장의 건설에 있어서 조선인·중국인을 련행 해서 로동을 강요했다. 미쯔비시의 석탄, 동, 군용기, 군함은 일본의 전쟁수행력의 일익이었다.

탄광에서의 사례를 보면 련행자에 의한 로동은 전시의 노예로동이며, 성적노예까지도 써서의 로물관리가 진행되었다. 당시「대동아공영」의 이름으로 《아시아해방》을 위한 《성전》이 선전되어 있었지만 그 전쟁을 위한 생산현장은 아시아인에 대한 억압과 착취의 장소였다. 련행자용의 건물은 미사려구로 표현되어 있었지만 실제로는 강제로동 수용소였다.

그러나 련행된 사람들은 단결해서의 귀환, 자유를 위한 도주, 민족의 독립을 위하여

지하조직을 만드는 등의 저항을 진행하였다. 생존과 해방에로의 싸움이 진행되었다는 것이다.련행지에서는 반수이상이 현장에서 숨진 곳도 많다.

패전함에 따라 기업측은 련행관계 자료를 인멸했다. 련행관계 자료의 대부분이 없어졌다. 그러나 남아있는 자료·명부부터 련행상황을 알수 있다.

중국인은 미쯔비시의 광업관련에서는 약 2700 명이 련행되고 약 470 명이 사망하고 있다. 련행기업은 정부에서 조선인·중국인을 사용해서 손실을 얻었다고해서 전후 인차 일본정부에서 보상금을 얻고 있다.

련행된 사람들은 전후 50 년으로 되는 1990 년대에 피해자 개인에로의 배상을 요구하고 국제법에 립각하고 재판 등으로 그 전쟁 범죄를 추궁하기 시작했다. 미쯔비시 관련에서는 련행조선인에 의한 나가사키 미쯔비시 조선, 히로시마미쯔비시, 나고야 미쯔비시 녀자 근로정신대 등으로의 재판이 있고 련행중국인 관련의 재판에도 미쯔비시에로의 련행자가 포함되고 있다. 2003년에는 미쯔비시 다카시마 탄광으로 련행된 중국인이 재판을 일으켰다.

련행조선인의 재판중에서 미쯔비시측은 인정여부를 거부해서 사실을 인정하지않고 《시효·제척》에 의해서 불법행위나 임금미불을 정당화하고 국책이나 「다른회사」라는 것을 구실로하여 지금도 그 책임을 지려고 하지 않는다. 일본의 판결은 또한 이를 추종하고 있다. 더더욱 최근에는 『강제련행은 없었다』라고 말하는 감펜이 력사개찬을 노리는 집단에서 진행되게 되었다.

전쟁책임을 회피하려고 하는 국가·자본에 대하여 민중이 인간의 존엄의 확립을 목표로 하고 력사의 사실을 확정하는 것으로 평화로운 사회와 력사를 획득할 수 있다. 현황은 그것이 될가말가하는 공방국면에 있다고도 말할 수 있을 것이다.

강제련행되어 강제노동속에서 생명을 잃은 사람들은 허다하다. 아시아 민중의 공동작업으로 강제련행에 의한 전시에서의 노동노예의 련행상황, 사망자, 저항상황 등의 실태가 해명되고 그것들이 사료와 함께 명시될 필요가 있다.

다음으로 미쯔비시 재벌의 전쟁과의 관계를 명시하고 미쯔비시에 의한 련행자수의 구체적상황, 사망자의 상황, 저항의 차례로 보아나간다.

2. 미쯔비시와 침략 전쟁

미쯔비시 상사는 1874 년의 일본에 의한 대만침략에서의 무기병사 수송으로 막대한 리익을 올렸다. 1875 년에는 미쯔비시기선이 설립되고 강화도사건시에도 병사를 수송했다. 1880 년대에는 정부에서 나가사키조선의 경영권을 획득하고 다카시마·나마즈타와 같은 규슈의 탄광경영을 하고 있었다. 1890 년대에는 군함의 건조를 비롯하여 사도나 이꾸노의 광산의 경영권을 정부에서 물려받았다.

1911 년에는 조선의 나네니우라에서 경영을 비롯하여 1910 년대에는 비바이나 오유바리 등의 흑가이드의 탄광경영에 들어갔다. 1918 년에는 미쯔비시광업이 설립되었다. 미쯔비시계 탄광에서는 일찍부터 조선인을 사용했다. 1917 년에는 비바이·다카시마·가미야마다에서 사용하기 시작하고 있다. 가미야마다에서는 조선인궤부의 《유괴》의 사례도 있다. 병기생산의 면에서는 고베조선에서 잠수함의 건조를 비롯하여 나가사키병기로 어뢰생산을 시작했다. 1920 년대에는 사하린남부로의 석탄개발이 진행되어 갔다. 1928 년에는 미쯔비시항공기가 설립되고 일본의 군용기의 주요생산기업으로 되어 갔다.

1930 년대에는 조선 각지에서 광산개발에 들어간다. 1934 년에는 조선과 항공기부문이 합해지고 미쯔비시중공이 성립했다. 미쯔비시나가사키에서 군함, 미쯔비시나고야에서 군용기, 미쯔비시도쿄에서는 전차가 제조되었다. 중국동북지방에 미쯔비시기기공장, 태만에 선거(dock)등의 건설이 진행되었다.

아시아태평양에서의 전쟁의 확대와 함께 각지에서 자원을 수탈하고 현지 민중을 혹사 했다. 국내의 다른 자본하에 있는 광산 등을 자기의 자본화에 짜넣으면서 1940 년대 전반 군수용에 제강·도쿄고속·미하라차량·나고야발동기·미즈시마항공기·가와사키기기·히로시마조선 기계·교토발동기·시즈오카발동기·구마모토항공기·나고야기기·이바라기기·미쯔비시 화성의 공장이 련달아 건설되었다. 건설·공장노동·지하공장건설에 조선인의 련행이 판명되고 있는 개소도 허다하다.

미쯔비시중공의 자본금은 1934 년에 5500 만엔이었지만 1945 년에는 10 억엔이 되고 있다. 군수에 대응하고 거대한 국가독점자본이 되고 있었다. 1942 년에 조선통제회가 설립되었지만 그 회장은 미쯔비시에서 나왔다. 광업부문을 보면 미쯔비시의 전시하의 석탄 생산은 년 700 만톤을 넘게 되고 전국 생산비의 14%정도로 되었다.

이와 같이 미쯔비시는 일본의 침략전쟁의 확대와 함께 그 자본을 성장시켜갔다.

미쯔비시의 광업과 중공업은 일본제국주의의 전쟁수행에 없어서는 안되는 것이었다. 그 자본의 의사가 국책의 기초로 되었다. 이 의사가 국내민중을 병사로서 동원하고 그에 의한 노동력부족 속에서 조선이나 중국에서 민중을 련행해 강제로동을 강요하게 된다. 미쯔비시의 생산은 련행된 사람들이나 아시아 각지에서의 자원수탈의 현장에서의 강제노동에 의해 지탱되고 있었다. 그 현장에서의 저항은 미쯔비시 자본뿐만 아니라 전쟁을 수행하는 국가의 근거를 뒤흔드는 것이었다.

3 미쯔비시에의 조선인 련행의 상황

3-① 미쯔비시의 광업에로의 조선인 련행자수

조선인이 련행된 미쯔비시계열의 탄광은 규슈의 新入·호쥬·나마즈타·

가미야마다·이즈 까·가즈따·다까시마·사끼또,혹가이도의
오유바리·비바이·모지리·유베쯔·샤끄베쯔·우라호로 등, 광산에서는 사도, 이꾸노,
아끼노베, 나까세, 오비라, 마끼미네, 호소꾸라, 대이네, 신시모가와 등이다.

1946년에 정부는 공탁금의 관계로 조선인의 명부의 제출을 각 현에 지시하고 있다.
잔존하고 있는 「조선인로무자에 관한 조사」에 있는 조선인 명부로부터 이하의
미쯔비시계열의 광산·탄광에로의 련행을 알 수 있다. 이러한 명부로부터는 이름·본적지를
알 수 있다.

광산에로의 련행상황을 보면 효고의 이꾸노광산 1340 인분(39~45년)의 명부는 전련행자를
나타내는 것으로 보여진다. 1340인중 823명이 도망하고 있다. 사망자는 16명. 련행 당초는
산청, 창녕, 합천, 함안, 홍성, 공주 등에서 왔다. 44년에는 경기릉인, 안성로부터 45년에는
강원녕월로부터 련행하고 있다.

효고의 아깨노베 광산 898 인분(42~45년). 아깨노베에게는 42년 6월까지 약 500명이
련행되고 있다. 명부의 인원에게 이 초기의 련행자수를 더하면 약 1400명이 된다. 도주는
522명(그 속에서 해방전의 도주는 425명)이며 이꾸노와 같이 반수 이상이 도망가서 자유를
요구하고 있다. 사망은 7명.

효고의 나까세광산 181 인분(44~45년). 그 속에서 도주는 70명이다. 나까세광산에
대해서는 「건강보험후생연금보험·피보험자자격상실계」가 발견되고 있으며 이것에
의해서도 이름을 알 수 있다.

미야기의 호소꾸라광산 명부를 보면 광산측에 의한 통계에서는 932 인분, 그 속에서
도망 582명·사망 9명으로 되어 있지만 명부의 수를 세면 963 인분, 그 속에서 도망
527명·사망 9명이 된다. 처음은 전북임실, 그 후는 경북군위, 영양, 안동 등에서의 련행이
많지만 44년 9월부터는 강원 녕월, 춘천으로부터 련행이 진행되었다.

아끼따의 오사리자와 광산 682 인분(44년~45년) 관 알선·징용분만, 련행자는 경기 부천,
가평, 김포, 리천, 양평, 광주 등에서 련행되고 있다. 이 명부는 련행자의 일부를 나타내는
것이다. 해방후 조선인련맹과 광산측하고 합의를 본 「급여금」에 대한 「각서」가 남아
있다. 오사리자와 광산내 이토구미의 34 인분의 명부도 있다.

아끼따의 고마끼광산 165 인분뭇도 44년부터 45년에 걸친 것이며 경기 수원, 안성,
고양등에서의 련행을 알 수 있다.

탄광에 대해서는 후꾸오가의 나마즈타 탄광 3051 인분이 있다. 나마즈타에는 전북 익산,
금제, 부안, 정읍, 순창, 전남 구례, 경북 상주, 충북 보은, 경기 려주, 리천, 룡인, 양주,
강원 양구, 강릉, 린제, 황해 은률 등에서의 련행이 많다. 도망은 1421명, 사망자는 53명이다.
련행자 천명 정도가 결락하고 있다고 보여지지만 탄광에로의 련행상황이 가장 잘 아는
명부이다.

나가사끼의 다까시마탄광 1299 인분(1945년의 현재원의 것) 사망자나 도주자의 것은 없다.
명부에는 미불금의 표가 있어 1299 인분 약 22만 5천엔이 미지불이 되고 있는 것을 알 수
있다. 다까시마광과 하시마광에로의 련행자는 4천명 가깝다고 보여진다.

나가사끼의 사끼또탄광 약 2899 인분(그 밖에 통장 명부가 539 인분)도 남아 있다.

다까시마와 하시마에 대해서는 매장화장관계 서류가 발견되어 련행기의 사망자의 일단이
밝혀지고 있다.

후생성 명부 이외로부터도 련행상황이 밝혀지고 있다.

사도광산에는 1200명이 련행되었다. 련행지는 충남이 중심, 전북으로부터도 련행되었다.
45년에는 사도로부터 219명이 후꾸시마(나까지마 비행기지하공장 건설) 189명이 사이따마의
지하공장 건설로 전송되고 있다.

가가와의 미쯔비시 나오시마정련소에 대해서는 보험자 명부로부터 131 인분의 이름을 알 수
있다. 또 련행상황이 「모집일지」로부터 안다.

대일본산업보국회의 작성한 「순직산업인명부」로부터는 1940년부터 42년에 걸친
로재사망자의 일부를 알 수 있다.

이즈에서 보크사이트 대체광으로서 채굴된 명반석의 광산에 나고야 미쯔비시로부터
조선인이 전송된 경우도 있다. 이 이즈의 명반석 광산에서는 중국인도 련행되고 있다.

여기서 미쯔비시의 탄광에서 가장 많은 사망자를 내고 있는 혹가이도 이시까리 스미다의
비바이 탄광에 대하여 보도록 한다. 미쯔비시 비바이탄광에는 1942년 6월까지 2150명이
련행되어 1945년 6월 현재에 2817명이 재적하고 있다. 련행 상황으로부터 미쯔비시
비바이에로의 련행자는 5000명을 넘는다고 보여진다. 또한 비바이에는 미쯔이의
비바이탄광도 있었다.

비바이의 사망자에 대해서는 매장화장관계 서류로부터 전기한 명부가 남아 있다. 이
자료는 정리되어 白戶仁康「비바이쫓 조선인 사망자 명부」로서 「전시 외국인 강제련행
관계 자료집」Ⅲ조선인2<상>에 수록되고 있다. 여기로부터 전기되고 잔존하고 있는
매장화장사망자 명부를 참조하여 미쯔비시 관계자를 찾을 수가 있다. 미쯔비시 관련의
사망자수는 270명 정도로 된다. 44년 5월의 사고의 조선인은 70명에 이른다. 비바이탄광에는
철도공업, 구로다조, 지사키조등이 갱내의 하청의 형태로 들어가 거기에다 련행된 조선인이
있었다는 것이 안다. 감옥방(다꼬방)에서 감금된 노예로동이며 사후 유골이 방치된 것도 있다.
최근 삿포로에서 발견된 미귀환의 유골의 일부는 이러한 하청의 조직의 것이었다.

미쯔비시계열의 광산 탄광에는 혹가이도를 보면 철도공업, 하라다조, 구로다조, 단조,
지사키조, 마즈무라조, 이데조, 즈치야조등이 갱도공사를 하청받고 있었다. 그 중에도 련행
조선인이 있었던 것이다.

이시까리탄전에 있는 미쯔비시 오유바리에도 4000명 정도가 련행되었다고 보여진다.

미쯔비시계열의 유베쯔탄광에도 수천명이 련행되고있다. (단 유우바리는 미쯔이계의 기따스미의 거점이며, 기따스미의 유우바리와 헤이와탄광에서 함께 1만 5천명 정도가 련행되었다고 보여진다.)

미쯔비시계열의 큰 탄광은 몇십개소에 미친다. 거기에는 3000~4000명의 규모로 조선인이 련행되고 있다. 미쯔비시의 탄광으로부터 약 5만명이 련행되었다고 보여진다. 이것에 광산에로의 련행자를 더하면 미쯔비시광업에로의 련행자 수는 6만명 가깝게 된다고 추정할수 있다.

3-②미쯔비시중공(조선·비행기·병기공장)에로의 조선인의 련행

나가사끼조선에는 후생성 명부의 나가사끼현에 해당되는 표에 의하면 1944년에 3474명, 45년에 2501명 합계 5975명이 련행되었다. 이 나가사끼조선에로의 련행자에 대해서는 수자통계만을 알고 있다. 「나가사끼시 조선인 피폭자 일람표」로부터는 조선의 후쿠다 기숙사의 황해도 장연 등에서의 련행자 약 80 명분의 이름을 알수 있다. 또 미쯔비시 정용공 생존자 동지회의 김순길 작성 명부로부터 부산으로부터의 련행자의 일부를 알수 있다. 나가사끼의 미쯔비시의 원폭비에도 몇 사람의 이름이 새겨지고있다.

나가사끼제강에로의 련행자에 대해서는 143명분이 있다. 명부에 의하면 45년 경북영일(포항시)부터의 련행자 중 29명이 배치 전에 도망했다. 나가사끼전기에로의 련행도 있었다는 것도 안다.

나가사끼병기에는 조선인녀자근로정신대가 련행되고 있었다고 말해지지만 그 자료는 발견되지 않고 있다. 이 공장은 원폭으로 전멸했다.

나고야 미쯔비시(항공기생산)에도 련행되고 있었지만 련행자의 자세한 수는 불명하다.

12살부터 14살정도의 조선소녀가 련행된 것은 도덕공장이다. 재판에 의해 련행자의 일부가 판명되고 있다. 당시의 지진에 의한 사망자의 이름도 알고 있다.

히로시마의 조선·기계공장에는 약 2800명이 련행되었다. 히로시마에 대해서는 재판 중(안)에 공탁명부(경기 평택10명분), 히로시마히가시사회보험소에서의 년금 가입자의 확인(32명)등이 확인되고있다. 공탁은 1948년 9월에 1951 명분이 되었다고 한다. 1946년에 서울의 태점사로 246 인분의 위령제가 진행되었다고 한다. 이 때의 자료나 동지회등의 명부로부터 련행자 명부를 작성할 수가 있을 것이다

고베의 조선공장에로의 련행에 대해서는 후생성의 명부에 1996 명분이 있다. 이것은 44년 9월 10월의 것이며 그 속에서 도망은 627명, 사망 12명, 출신이 북쪽의 평남 중화·강서·순천·강동·대동·룡강·평양 등이다는 것을 알수 있다. 증언에서는 이 명부에 기록되었던 시기 이외에도 련행이 있었다고 하는 것이 있으며 이 명부는 련행자의 일부로 보여진다. 련행자는 3000명을 넘었던것이 아닌가.

야마구찌의 히꼬시마, 기따큐슈의 와까마쯔, 요꼬하마에도 미쯔비시의 조선공장이 있었다. 정확한 련행수는 불명하다.

큐슈의 미쯔비시화성 마끼야마, 화성 구로사끼공장, 효고의 미쯔비시전기 이따미, 화성 이보 공장에 대해서는 후생성 명부가 있다. 마끼야마는 전북 완주·옥구 85 명분, 구로사끼는 본적 불명 427 명분이다. 구로사끼의 경우는 도망이 263명의 다수에 이르고 있다. 이따미는 전북 중심의 78 명분, 이보는 강원·경기 부천의 48 명분이며 이름을 알 수 있다. 이것들은 44년부터 45년에 걸친 련행자의 명부이다.

전기 이따미에는 76 명분의 명부가 있어 그 속에서 징용은 50명, 도망은 4명이다. 전북 금산으로부터의 련행자가 많다. 화성 이보에로의 련행은 48명(경기 부천), 도주는 10명이다.

그 밖에 가와사끼기기, 교토탄동기(지사인계서에 227명의 재적·45년 6월), 도야마피난 공장 등에로의 련행이 밝혀지고있다.

미쯔비시중공의 사사에는 「반도인 징용」12913명의 숫자가 있지만 이것은 현재수이다.

중화학공업에서의 련행자는 나가사끼 6000, 고베 3000, 히로시마 3000, 그 외의 조선공장, 화성·전기, 비행기 공장 등을 넣으면 련행자수는 2만명 가까왔다고 생각한다.

공장건설에도 많은 조선인이 동원되고 있다. 나고야중공정지공사, 나가사끼병기 오오하시 공장건설, 미즈시마항공기공장 건설에서는 오오바야시조에 42년 6월까지 각각 214명, 177명, 136명이 현장에 련행되고 있다. 나가사끼조선의 독크굴착이나 구마모또의 건군항공기 건설에서도 련행되었다는 조사 보고가 있다. 후쿠시마의 제강 히로타공장건설에도 동원되고 있었다.

전쟁이 계속되어 미군에 의한 일본 각지에로의 공습이 시작하게 되자 주요 군수 공장의 지하 공장화가 촉진된다. 미쯔비시의 군수공장의 이전도 진행되었다. 당시 이 지하공장건설을 많은 토건자본이 하청받았다. 지하공장건설은 국책으로서 진행되었다. 대규모 지하공장건설에는 2천~3천명이라고 하는 수의 조선인이 동원되었다.

미쯔비시의 나가사끼, 구마모또, 히로시마, 구라시끼, 나고야, 요꼬하마등의 공장에서는 대규모 지하공장화가 촉진되어 특히 나고야의 비행기공장을 중심으로 하는 미쯔비시의 공장군의 피난·지하공장화는 근현의 기후, 도야마, 나가노현에까지 미치는 것이었다. 후생성 명부자료로부터 나고야의 미쯔비시중공의 나가노니꼬다 지하공장 공사에 약 1000명(니시마쯔조·도다조·마루끼조), 사토야마베공사에 약 600명(구마가이조)이 련행되고 있었던 것이 알 수 있지만 실제로는 각각 3천명 정도가 련행되고 있었다고 보여진다. 또 미쯔비시중공 나가노건설부가 조직되어 거기에 련행조선인이 배치되고 있었던 것이 알 수 있다. 아이찌의 가꾸텐, 기후의 구구리, 히라마끼에도 미쯔비시발동기 관련의 거대한 지하공장이 건설되고 조선인이 련행되었다.

이러한 공사에로의 조선인의 동원 수는 수만명이 된다.

덧붙여 미쯔비시는 탄광으로부터의 석탄을 항구에 옮겨 수송했다. 그 때문에 수송·창고·항만로동을 많은 노동자가 담당했다. 거기에도 수많은 조선인이 포함되어 있었다. 전시하 항만업의 통제에 의해 각 항만에서 현지의 유력기업을 중심으로 항만업이 재편되었다. 무로란, 고베, 도쿄, 오사카와 다른 주요 항만에는 련행된 조선인·중국인의 모습이 있었다. 그들은 무로란의 케이스로부터 아는 바와 같이 미쯔비시의 화물도 운송했다.

조선녀성이 「위안부」로서 성적노예가 되고 있었던 곳도 있다. 비바이·오유바리·호쥬·다카시마·사기또등의 탄광의 대부분이 그러한 시설을 가져 구마모또의 건군공장 건설공사에서도 위안소가 있었다고 한다.

여기서 봐 온 것처럼 탄광 광산에서의 약 6만, 중공업에서의 약 2만, 지하공장건설에서의 수만인의 숫자로부터 미쯔비시관련에서의 조선인 련행자 수를 약 10만명으로 추정하고 싶다. 그것은 일본본토에서의 로무관계의 련행조선인의 10 몇프로를 차지한다.

3-③ 미쯔비시광업에로의 중국인련행

미쯔비시에로의 중국인 련행에 대해서 보자.

탄광에서는 비바이〔철도공업에 의한 청부〕 289명〔그 중 사망 29〕, 오유바리(지사끼조의 청부) 293명〔사망 85〕, 가즈다 352명〔사망 87〕, 이즈카 189명〔사망 20〕, 다카시마하시마갱 204명(사망 15), 다카시마신갱 205명(사망 15), 사기또 436명(사망 64).

광산에서는 오사리자와 498명(사망 83), 마끼미네 244명(사망 70).

미쯔비시의 광업에로의 중국인 련행은 2709명이 되어 그 중 468명이 사망하고있다. 련행자 명부를 보면 15세 이하의 소년도 포함되어 있다.

아이찌의 미쯔비시오오부 비행장의 확장, 나가노의 사또야마베와 기후의 가와베에서의 미쯔비시 지하공장 건설에도 중국인을 련행하고 있다. 고베의 조선소에도 항만에 련행된 중국인이 파견되고있다.

또 식민지였던 대만으로부터 소년공이 다카꾸라 해군공창에 련행되어 그 중의 일부가 나고야 미쯔비시공장(오에·도또꾸)에 전송되고 있다. (중국인 련행은 만주에로의 련행이나 대만으로부터의 남방·일본에로의 련행도 포함하여 해명되지 않으면 안된다.)

전후 미쯔비시광업은 련행에 의한 「손실」보상을 정부로부터 받고있다.

련합군포로도 련행되어 미쯔비시의 호소꾸라광산, 오사리자와광산, 이꾸노광산, 아께노베 광산, 고베조선, 나가사끼조선, 요꼬하마·고베의 미쯔비시창고에서 로동을 강요당했다.

4. 침략전쟁과 아시아 각지에서의 미쯔비시의 사업의 확대

미쯔비시는 침략전쟁의 확대와 함께 아시아 각지로 진출했다.

조선반도에서의 미쯔비시의 광업은 금제, 청암, 우익, 해주, 삼동, 련화, 월전, 화전리, 보산, 삼광, 철령, 감덕, 대동, 대보, 무산, 하성 등의 광산이나 조선무연탄, 청진정련, 갠이포제철 등에서 진행되었다. 1930 년대에 활발해진 이러한 광업에 대한 현지에서의 동원 상황은 불명하다.

사할린에서는 미나미가라후또 탄광철도를 지배하여 나이호로, 도우로, 기따꼬자와의 탄광을 소유했다. 사할린으로 련행된 조선인은 1만 명 이상이며 미쯔비시계렬의 련행은 하청현장에 동원된 조선인도 포함하면 2천 명을 넘는다. 전쟁말기에는 미쯔비시계렬의 탄광으로부터 약 1000명이 규슈로 전송되었다. 현재도 사할린에 거주하는 사람들이 있다.

중국에서는 石咀子, 八面通, 招遠, 南支第一의 광산, 太文口, 淮南, 新泰의 탄광 등을 지배했다. 일본 알루미눔다카오공장을 건설하여 대만이나 江南의 조선소도 소유했다.

전쟁의 확대와 함께 동남아시아로 진출했다. 싱가포르에 사무소를 두어 昭南조선을 설립, 타이의 고브께브광산〔錫〕, 인도네시아의 로가스탄광, 딘브렌광산, 반까광산, 바렌반·바리끄빠반의 석유, 버마의 다보이광산〔탄그스텐〕, 말레이의 바로아란의 탄광·내화련와, 필리핀의 바라까래광산, 마란가스·브라라까오·마나트의 탄광, 산마라리시오의 동·아연, 미네라르리조세즈광산, 마리따오광산 등을 개발하여 군의 지배화로 수탈을 진행하여 현지의 노동자를 혹사했다. 수탈한 자원의 수송에도 많은 노동자가 동원되었다.

5. 미쯔비시 관련의 련행조선인의 사망자 수에 대하여

다음에 미쯔비시 관련의 사업소에서의 조선인 사망자에 대하여 보자.

후꾸오가의 탄광에 대해서는 후꾸오까현 「로무동원계획에 의한 로무자사업장별 조사표」에 1944년 1월까지의 사망자수가 기록되고 있다. 거기에 따르면 新入 20, 나마즈따 27, 호쥬 20, 가미야마다 44, 이즈카 11, 가즈타12가 된다. 나마즈따에 대해서는 후생성 명부로부터 53명분의 사망자의 이름을 알 수 있지만 1944까지 43명이 사망하고 있다. 여기로부터 이 후꾸오까현의 보고가 반드시 정확하지 않는다는 것을 안다. 나마즈따에 대해서는 명부에 포함되지 않고 있는 광이 있어 사망자의 수는 한층 더 많다고 보여진다. 가이시마자본의 오오노우라탄광에는 1만명이 련행되고 있지만 105명분의 사망자가 밝혀지고 있다.

이러한 사망자의 상황으로부터 3천부터 4천명 규모의 련행이 있던 지꾸호우의 미쯔비시계 탄광에서의 사망자는 하나의 탄광에서 50명 이상 존재했다고 봐도 좋을 것이다. 그 중 사망자의 이름이 일정하게 알고 있는 것은 나마즈따의 53명, 호쥬의 47명 뿐이며 가미야마다에 대해서는 만령탑의 아이를 포함하여 50명 이상의 이름이 있다. 다른 탄광에

대해서는 몇 명 안 되는 수를 알 수 있을 뿐이다. 후쿠오카의 미쯔비시계 탄광에서의 사망자 수는 300명을 넘을 것이다.

그 중에는 사후에도 유골이 반환되지 않았던 것이 있다. 전후 조사되고 한국으로 반환되어 간 유골도 있지만 이름은 불명하다. 이즈카시내의 사원에 방치되고 있던 유골을 안치하는 추도당(무궁화당)이 건설되는 속에서 미쯔비시나마즈마의 명부로부터 유족의 연락처를 알 수 있어 최근에 되어 반환된 경우도 있다.

나가사키의 다카시마, 사끼또의 탄광에 대해서는 매장화장관계 서류로부터 사망자의 일부가 명확하게 되어 있다. 미쯔비시사끼또에서는 중국인이 저항하여 27명이 검거되고 형무소에서 피폭사하고 있다.

후카이도의 비바이에 대해서는 사망자의 거의 모두인 약 270명분, 오유바리에 대해서는 수명만, 모지리에 대해서는 순직자 명부나 아까비라시사등에서 32명분, 유베즈에 대해서는 41~42년분으로 18명분이 명확하게 되어 있다. 후카이도에서의 미쯔비시계열의 탄광에서의련행기의 사망자는 500명을 넘는 것이 아닌가. 전후도 방치된 유골도 있다.

잔존자료로부터 광산에서는 이꾸노, 아게노베, 나가세, 사도, 오비라, 마키미네, 호소꾸라, 오사리자와 등에서의 사망자 약 50명이 안다. 이것들은 사망자의 일부를 나타내는 것이다.

공장관계에서는 나가사키·히로시마에서 원폭피해를 받고 있다. 그 다른 사업소에서도 사망자는 많다고 생각되지만 그 실태는 불명의 것이 대부분이다.

6. 련행된 사람들의 저항

련행된 사람들에 대한 저항에 대해 보자. 광산, 탄광관계로 말하면 후생성명부로 나마즈마, 이꾸노, 아게노베, 호소꾸라의 련행상황과 도주의 실태를 본 것처럼 련행자의 5할 이상이 도주하고 있는 경우가 많다. 특히 탄광에서는 사고나 학대에 의한 사망이 있어 생사를 걸고 도망을 시도하는 경우가 많았다. 생산현장으로부터의 리탈은 전쟁수행력의 저하에 이어졌다.

련행된 사람들을 포함한 쟁의나 독립운동도 각지에서 일어났다. 후카이도의 레를 중심으로 보자.

조선인의 련행은 1939년 5월에 석탄광업련합회가 6월에는 후카이도석탄광업회가 미쯔비시 900, 호꾸만·미쯔이 2800 등 합계 5810명분의 「집단이입」을 후생성에 요구하여 7월에는 로무동원실시 계획강령이 책정되어 나갔다. 련행로동자의 통제·감시를 위한 협화회(協和會)의 조직화도 추진되었다. 9월 말에 충청도청이 모지리 200명, 경북도청이 비바이 700, 오유바리 250, 유베즈의 1000명의 련행을 승인, 10월에 들어가서 각 탄광·광산으로 련행되어 갔다.

련행된 사람들은 곧 저항하고 있다. 10월말 데이네광산에서 파업·귀국 요구, 비바이에서

입쟁거부, 11월 데이네에서 로재사(勞災死)를 계기로 항의행동, 12월에는 유베즈 우라호로에서 개선요구파업, 1940년 1월에는 비바이에서 취로거부, 대우개선요구, 락반에 의한 죽음에 대해 파업, 2월에는 구타에 항의해 파업, 3월에는 오유바리에서 구타항의·로무계경질요구파업 등이 계속되어 일어나고 있다.

탄광측은 40년 9월말, 오유바리에 「휴식의 집」이라고 하는 「위안소」를 만들어 12명의 조선녀성을 련행하고 있다. 이러한 「위안소」가 각지의 탄광에 설립되어 갔다. 2년이 지난 해인 41년에는 「정착장려」의 이름 아래 계속할 것을 강요받아 황민화가 한층 강화되었다.

탄광하청기업에 련행된 조선인의 저항도 강해지고 있다. 레를 들어 42년 3월에는 비바이 철도공업단조(美唄鐵道工業團組)로 구타를 계기로 도주 계획, 8월에 유베즈철도공업에서 구타에 항의, 10월 모지리 쓰찌야구미(土屋組)에서 계약위반에 대해 개선요구처럼 폭력적 관리나 열악한 생활환경에 대해서 저항하고 있다.

조선인이 대량적으로 련행되고 있던 유우바리지구의 탄광을 중심으로 조직적 독립운동도 전개되었다. 활동의 중심이 된 것은 미쯔비시오유바리의 이데구미(井出組)에 련행된 집단과 함께 일본에 건너온 안재호(平山昌成)였다. 그는 43년 10월에 검거되지만 11월 조사중에 도망하여 11월에 데시오에서 재검거되었다. 이전에는 원산에서 활동하여 이데구미(井出組) 련행자의 통역으로서 소개되고 오유바리에 와 있다. 그는 이데구미(井出組)의 조선인이나 오유바리의 련행자의 기숙사의 전통역, 조선료리점(星の家)의 지배인 등을 조직, 거기를 거점으로 하여 유우바리지구에 저항조직을 넓혀 호꾸만유우바리의 남정(南亭)의 영업주나 유우바리 탄광의 통역을 자기 편으로 끌어들이었다. 또한 삭뽀로 등에서 조선료리점을 경영하여 아이들이 독립운동과 관계되고 있던 손방주(孫邦柱)와 련계를 취하여 스나가와, 비바이, 이꾸순베즈에도 조직을 확대해갔다고 한다. 집권층은 조직적인 조선독립운동으로 간주하여 43년부터 44년에 걸쳐 관계자를 검거해 나갔다.

잠입하는 헌병의 스파이도 있는속에서 련행자를 위한 통역을 동료로 하여 련행자용의 료리점(위안소)을 저항의 거점으로 하면서 다수의 련행자의 해방과 조선의 독립을 목표로 하여, 채탄의 사보타주를 진행시키면서 저항이 조직되어 갔던 것은 사실이다. 여기에서는 자기회복, 자유해방을 요구하면서 활동이 전개되고 있었다.

해방후 10월 중순, 후카이도에서 조선민족통일동맹이 결성되지만 그 위원장은 10 월초에 석방된 안재호이며 그와 함께 손방주나 김흥곤(金興坤) 등의 모습이 있었다. 현장의 조선인·중국인은 일어나 귀국이나 생활조건 개선, 배상 등의 요구를 내놓았다.

10월말의 조선민족통일동맹의 대회에서는 「강제이입로동자」를 혹사한 일본 자본가에게로의 정당한 위로금의 요구가 나오고 있다. 그러나 점령군과 자본은 배상에 대해서는 기본적으로 거부하는 자세를 취하고 있다.

호꾸판의 자료에는 11월 3일 호꾸판호로나이탄광에서의 교섭때 안(安)이 「가혹하게 취급한 자에 대한 대가는 당연히 지불하여야 한다」라고 하면 조선인이 배후로부터 「갱내 작업의 가혹한 정황을 과대하게 설명하여 왜친다」라고 쓰이고 있다. 그것은 「과대」는 아니고 진실이고 당연한 요구였다. 이 때의 요구는 지금도 아직 실현안되어 있다.

이와같은 련행조선인·중국인의 저항은 전국각지에서 있었다.

맺는 말

이상 본 것처럼 미쯔비시재벌은 전쟁시기 광업, 중공업, 공장건설로 많은 조선인·중국인을 사용하여 또 아시아각지에서 현지로동력을 리용하여 자원을 수탈했다.

기업으로서의 전쟁책임을 자각한다면 미쯔비시는 미쯔이와 함께 피해자 개인에 대한 배상을 위하여 기금을 출납해서 설립하는 립장에 있다고 말할 수 있다. 독일에서의 기금의 설립은 그 선례일 것이다.

후생년금의 명부나 잔존자료로부터 련행자의 명단은 기업 자신의 활동에 의해 밝혀져야 할 것이다.

미쯔비시관련의 재판으로 미쯔비시가 취한 대응은 사실을 인정하지 않고 배상을 시효로 하여 련행은 국책이며 책임은 없다고 하는 것이었다. 한편 방치된 유골은 지금도 있어 그러한 유골은 이 문제의 해결을 계속 호소하고 있다고 말할 수 있을 것이다.

련행피해자의 존엄의 회복이 제일의 과제이며 그것을 위한 사업이 정부와 련행기업의 과제이다.

마지막에 하나의 사료를 소개하고 싶다.

1944년 5월 31일 혹가이도탄광기선의 로무보도원이 부산의 주재원한테 보낸 전남령광군에 대한 상황보고이다. (「혹가이도와 조선인로동자」 70 페이지)

호꾸판의 로무에 있어서 이 군은 1943년 7월 9월에는 50명의 「할당」을 100프로 송출한 「우수」한 군이 였다.

1944년 5월에 련행에서 북방요원 100명(군요원으로 보여진다)의 징용명령이 나왔지만 21일에 36명(「면에서 강제적으로 련행한 자」)밖에 모이지 않았다. 그 때문에 더 120명을 할당하여 경찰이나 직원을 총동원하여 「잠자고 있을 때 습격하여」 「농사일에 나가고 있는 도중의 사람을 무조건, 강제적으로 련행한다」. 그것에 의해 22일에 84명을 모아 수송했다고 한다.

호꾸판에로의 련행에서도 26일에 64명 밖에 모이지 않고 군청으로 「련행중 도주」하는 사람이 있어 「로인(아들이 도주하였기에 그 대신에 부친을 련행)」, 환자가 다수이며 40명을 계승했지만, 무리하게 송출했기 때문에 「가족등과 군직원, 면직원사이에서

대혼란이 있음」, 그 사이에 6명이 도주, 자동차에 실지만 송정리에서 다시금 4명이 도주, 열차에서도 1명이 도주, 련수에서 병송환 1명, 결국 28명의 련행되었다.

여기에는 호꾸판의 로무담당자 자신의 손에 의해 강제적인 련행상황이 기록되고 있다. 조선인강제련행의 현실을 분명히 가리켜 전쟁시의 로동노예사냥을 고발하는 사료이다.

스미또모 혼베쓰에서의 1944년 10월의 도망자에 대한 「사형지사(私刑致死)」하고 그것을 계기로 한 1400명의 파업에 관한 호꾸판호로나이의 사료(같은 책 535페이지)도 폭력적인 로무지배와 련행자의 저항을 나타내는 사료이다. 이러한 사료는 과거를 개찬할수 없는 것을 나타내는 것과 동시에 배우는 사람에게 련사와 인간의 방향성을 제시하고있다.

参考文献

- 厚生省勤労局「朝鮮人労働者に関する調査」1946年
大日本産業報国会『殉職産業人名簿』1942年(カ)
美唄町文書からの転記「美唄町朝鮮人関係死亡者調査書」
本願寺札幌別院「遺骨遺留品整理簿」1969年
北海道立労働科学研究所「研究調査報告12号」(長澤秀編『戦時下強制連行極秘資料集』I緑陰書房1996年)
福岡県特高課「労働動員計画ニ依ル移入労働者事業場別調査表」1944年
「長崎朝鮮人被爆者一覧表」長崎市1982年
金興坤「怒りの海峡」(『人間雑誌』7草風館1981年)
朴慶植編『在日朝鮮人関係資料集成』4・5 三一書房1976年
長澤秀編『戦時下朝鮮人中国人連合軍俘虜強制連行資料集』I緑陰書房1992年
林えいだい編『戦時外国人強制連行関係資料集』II明石書店1991年
林えいだい『死者への手紙』明石書店1992年
林えいだい『朝鮮海峡』明石書店1988年
長崎在日朝鮮人の人権を守る会『原爆と朝鮮人』4・1986年
金光烈『目で見た筑豊・朝鮮人強制労働の記録』明石書店2004年
朝鮮人強制連行実態調査報告書編集委員会『北海道と朝鮮人労働者』札幌学院大学生生活協同組合1999年
三菱鉱業セメント社史編纂室『三菱鉱業社史』三菱鉱業セメント1976年
城田登山村喜晴白西紳一郎『三菱軍需廠』現代評論社1971年
白戸仁康編『戦時外国人強制連行関係資料集』III朝鮮人2上 明石書店1991年
筑豊石炭鉱業史年表編纂委員会『筑豊石炭鉱業史年表』田川郷土研究会1973年
杉山四郎『語り継ぐ民衆史』北海道出版企画センター1993年
杉山四郎『続語り継ぐ民衆史』同1997年

朝鮮人強制連行真相調査団『朝鮮人強制連行強制労働の記録・北海道千島樺太編』現代史出版会 1974年
 朝鮮人強制連行真相調査団『朝鮮人強制連行真相調査の記録兵庫編』柏書房 1993年
 朝鮮人強制連行真相調査団『朝鮮人強制連行真相調査の記録中部東海編』柏書房 1997年
 芝竹夫『炭鉱と強制連行』筑豊塾 2000年
 全国交流会九州編『九州の強制連行』全国交流会九州実行委員会 1999年
 『太平洋戦争中の細倉鉱山における朝鮮人労働者の実態』宮城県朝鮮人犠牲者慰霊実行委員会 1963年
 桑原真人『近代北海道研究序説』北海道大学図書刊行会 1982年
 上野志郎『室蘭における中国人強制連行強制労働の記録』中国人殉難者全道慰霊祭事務局 1994年
 『知っていますか北海道での中国人強制連行』日中友好協会北海道支部連合会 1989年
 全国一般長崎連帯支部長船労組『平和と都市長崎における三菱の兵器生産』第2版 2003年
 『三菱は未払い賃金を支払え!』三菱広島元徴用工被爆者裁判を支援する会 1996年
 『元朝鮮女子勤労挺身隊に対する損害賠償等請求事件第二次訴訟訴状』名古屋三菱訴訟弁護団・支援する会 2000年
 「百万人の身世打鈴」編集委員会『百万人の身世打鈴』東方書店 1999年
 浄土卓也『朝鮮人の強制連行と徴用』社会評論社 1992年
 大塚一二『トラジ福島県内の朝鮮人強制連行』1992年
 神奈川と朝鮮の関係史調査委員会『神奈川と朝鮮』神奈川県 1994年
 京都府朝鮮人強制連行真相調査団『京都府の朝鮮人強制連行』1991年
 亀島山地下工場を語り継ぐ会『亀島山地下工場』1990年
 田中宏松沢哲成編『中国人強制連行資料』現代書館 1995年
 野添憲治編『秋田の朝鮮人強制連行』彩流社 1999年
 証言する風景刊行委員会『証言する風景名古屋発』風媒社 1991年
 里山辺朝鮮人中国人強制労働調査団『里山辺における朝鮮人中国人強制労働の記録』1992年
 松本市史近代部門編集委員会『松本市における戦時下軍事工場の外国人労働実態調査報告書』1992年
 長澤秀「貝島炭鉱と朝鮮人強制連行」(『青丘学術論集』14 韓国文化研究振興財団) 1999年
 長澤秀「戦時下南樺太の被強制連行朝鮮人炭鉱夫について」(『朝鮮人強制連行論文集成』明石書店 1999年)
 守屋敬彦「アジア太平洋戦争下の被強制連行朝鮮人の反日独立闘争」(佐世保工業高専『研究報告』37) 2000年
 守屋敬彦「日本敗戦直後の北海道石狩空知炭田での被強制連行中国人朝鮮人の闘争」(同『研究報告』36) 1999年
 澤田純三「太平洋戦争下の雄神地下工場について」(『近代史研究』15 富山県近代史研究会) 1992年
 竹内「三菱高島炭鉱への朝鮮人強制連行」(『在日朝鮮人史研究』33) 2003年「筑豊の炭鉱史跡と朝鮮人追悼碑」(『在日朝鮮人史研究』32) 2002年
 西田秀子「戦時下北海道における朝鮮人『労務慰安婦』の成立と実態」(『女性史研究ほっかいど』1 札幌女性史研究会) 2003年

지금이야말로 일제감정하의 체험을 역사기록에 남기자

조선대학교 (일본 도쿄) 강제연행문제연구회
 김수향 (정치경제학부 법률학과 4학년)

오늘 일본정부는 <조일평양선언> (2002년) 을 채택한 후에도 여태까지 과거청산을 위해 성실한 태도를 보이지 않고있을 뿐만 아니라 오히려 군사대국화의 위험한 길을 줄달음질하고 있다. 이러한 상황속에서 우리 나라와 일본과의 불미스러운 과거를 청산하고 동북아시아의 진정한 평화와 안정을 안아오는데서 불가결의 문제의 하나가 바로 일제군사 감정아래서 우리 민족이 입은 피해의 진상을 까밝히는것이다.

본 보고서를 제출한 목적은 위의 문제를 해결하기 위해 지금이야말로 북, 남, 제일의 대학생들이 진상규명을 위한 공동연구를 개시해야 할 때라고 인정하고 부족하나마 우리가 진행한 증언수집 활동을 소개하자는데 있다.

1. 일제감정하의 체험을 역사기록에 남겨야 할 필요성

일제식민지통치의 직접적인 피해자 (일본에서는 1세와 2세대동포의 일부) 들의 증언에는 일제의 군사감정하에서 갖은 고생을 강요당한 우리 민족의 울분과 고통의 역사가 구체적이고 생동하게 담겨지고 있다.

또한 그것은 식민지배의 피해상황을 명백히 밝히고 그 책임을 추구해나가는 데서 더없이 귀중한 구술자료이기도 하다.

뿐만아니라 일본에 사는 우리 3세, 4세에 있어서 1세대 동포들의 체험담은 자기들의 정확한 뿌리를 알고 일본에서 조선민족으로서의 정체성을 유지해나가는 데서 많은 시사를 준다.

더구나 오늘 피해자들의 고령화가 촉진되고 날마다 증언자가 감소해가고 있는 상황에서 증언수집을 다그치는 것은 급선무의 과제로 제기되고있다.

최근 몇해 동안 조선대학교 (일본 도쿄 고다이라시) 에서는 학생 (3세, 4세) 들이 자주적으로 각지 <강제연행진상조사단> 의 협력을 받아가면서 제일동포 1세들의 체험담을 수집하는 활동을 벌려왔다.

증언수집활동정형은 다음과 같다.

- ① 2000년 10월 지바현; 22명에 대한 증언수집 (역사지리학부학생 8명)
- ② 2002년 6월 도쿄도; 11명에 대한 증언수집 (역사지리학부학생 6명)
- ③ 2002년 7월 군마현; 8명에 대한 증언수집 (정치경제학부학생 3명)
- ④ 2003년 6월 도쿄도; 9명에 대한 증언수집 (문학력사학부학생 10명)
- ⑤ 2003년 6월 도찌기현; 6명에 대한 증언수집 (정치경제학부학생 2명)

⑥ 2004년 3월부터 도교도 ; 현재 황민화정책피해자에 대한 증언수집활동을 벌이고 있음 (정치경제학부학생)

이 속에서 2000년 10월에 지바현에서 수집한 증언은 강제연행진상조사단이 발행한 도서《조선인강제연행진상조사의 기록-간포편 1》에 수록되었으며 다른 증언들도 앞으로 출판하게 될 《간포편 2》, 《간포편 3》에 수록될 예정이다.

2. 증언수집 방법에 대하여

1) 사전준비

증언을 수집하기에 앞서 사전준비부터 시작하였다. 사전준비는 증언수집활동의 질을 좌우함으로 가장 힘을 쏟은 공정이다.

사전준비의 내용은 사전학습, 증언수집을 위한 기자재준비, 증언자에 대한 협력의뢰 등이 있다.

사전학습과정에서는 우선 일제의 조선침략사, 강제연행사, 증언수집을 하는 지역의 재일동포사 등의 학습을 선행했다. 이 학습을 통하여 당시의 정형을 대체로 파악하며 동시에 당시에 쓰던 용어 레를 들어 〈황국신민의 서사〉, 〈교육칙어〉, 〈협화회〉 등의 리해도 깊었다.

다음으로 증언수집방법을 익혀간다. 이 공정에서는 증언수집요령과 설문의 확인, 발간된 증언집의 독보, 증언을 수록한 비디오학습을 통하여 증언을 어떻게 수집해 나가는가, 어디에 중점을 두어야 하는가, 증언수집에서의 류의점 등을 배워나간다. 특히 사전에 증언비디오를 보는것은 1세분들이 하는 말을 익히며 증언청취공정의 표상을 가지는데 좋다.

또한 증언수집에 필요한 기자재를 준비한다. 준비해야 할 기자재는 비디오촬영기 (디지털장려), 사진기 (디지털장려), 녹음기, 파소콘 등이다. 증언수집을 하면서 같은 시간에 증언정리작업을 진행하는데서 휴대용파소콘이 있으면 편리하다.

증언청취에 가기에 앞서 증언수집대상자의 명단을 작성하여 대상자에 사전에 연락하며 증언수집날자를 결정한다. 그때 증언수집의 취지와 들어보고싶은 사항들을 정리한 협력의뢰안내를 증언자에게 넘겨놓는것이 좋다.

2) 증언청취

증언청취는 보통 2명을 1조로 하여 진행하고있다.

현장에서는 청취하기전에 증언수집의 의도와 목적을 설명하고 아래에 올린 질문사항에 따라 청취를 하게 된다.

- ① 이름, 생년월일, 본적지, 연령, 현주소, 전화번호
- ② 고향에서의 생활 (부모님이 하던 일, 가족구성, 생활형편등)
- ③ 도항경위 (언제, 도항리유, 승선장소, 상륙장소, 일본의 어디로 이동했는가)
- ④ 일본에서의 생활 (로동작업소명과 소재지, 작업내용과 로동조건, 징용, 도망, 징

용거부, 로동운동, 사고, 사건, 협화회, 창씨개명, 체포, 구속, 감시, 공습피해, 피폭피해, 집거, 식생활, 의복, 교육 등)

⑤ 해방후 생활 (귀국못한 원인, 생활형편, 민족교육과 민족권리를 지키기 위한 운동참가 등)

⑥ 사실관계뿐만 아니라 당시의 심정, 느낌을 들음.

⑦ 비디오촬영, 녹음, 증언자의 얼굴사진, 당시의 사진이나 관련자료가 남아있는가 확인

청취는 처음에 각 항목에 따라서 큼직하게 질문을 하고 증언자에게 자유로이 이야기를 해받으며 거기서 언급안된 내용에 대해서는 상세히 질문하여 확인을 하는것이 청취공정을 순조롭게 가져갈수 있다.

증언을 수집하는데서 어려운 점은 1세분들이 하는 이야기를 정확히 알아듣는 것이다. 사투리가 남아있어 발음을 잘 알아듣지 못하거나 증언내용의 력사적배경이나 사실관계를 몰라서 고생할 때도 적지 않다. 그러므로 사전준비가 중요한 것이다.

3) 증언정리

증언은 될수록 청취한 그날 중으로 녹음을 풀고 문장화하는 것이 좋다. 당일에 처리하는 것이 들은 내용을 선명하게 기억하고 있기 때문에 문장화작업을 다그칠수 있다. 놓친 내용이 있을 경우에는 다시 한번 대상자를 찾아가거나 전화로 확인하여 수정, 보충해야 한다. 마지막에 증언자에게 원고를 확인해받는다.

완성된 원고와 촬영한 비디오, 사진은 증언자와 강제연행진상조사단에 송부하고 있다.

3. 증언수집활동을 통해서 느낀점

일제식민지통치하 1세분들이 일본에 건너오게 된 경위, 이국땅에서의 어려운 생활상황, 차별과 탄압속에서 민족의 존엄과 우리 말을 지켜온 력사를 배울수 있었으며 자기들의 뿌리를 다시금 생각하는 계기가 되었다.

지금까지도 강제연행문제나 해방전 재일동포들의 력사에 대하여 학교의 공부시간에 배우고 지식으로는 알고 있었지만 1세분들의 체험담은 수업이나 교과서보다도 더 구체적이고 생동했으며 아직도 과거청산이 이루어지지 않고 민족차별이 계속 남아있는 일본사회에서 우리가 어떻게 살아나가면 좋겠는가 하는 해답이 담겨지고 있었다.

동시에 1세들의 증언을 기록으로 남기는 중요성을 더욱 절박하게 느끼게 되었다. 1세분들의 증언은 일제가 지난시기 우리 민족에게 저질은 가해의 진상이 그대로 밝혀지고있다. 일본정부가 오늘도 계속 과거력사를 왜곡하고 자기들앞에 나선 력사적 책임을 회색화시키자고 하고 있는 조건에서 피해자인 1세 동포들의 증언을

수집하고 기록으로 남기는 것은 일본의 과거청산을 촉구하는데서도 중요한 의의를 가지고 있다.

또 그 자체가 1세분들의 한을 푸는데 이어지고 있는 것이다.

또한 증인수집을 통하여 이국에 사는 3세, 4세 재일동포들이 일본땅에서도 조선사람으로서의 정체성을 계속 유지하고 애국애족의 길을 걸어나가야 할 필요성에 대하여 재확인할 수가 있었다. 또한 우리가 후대들에게 자기들의 뿌리를 확인시켜주고 애국애족의 정신을 이어주자면 1세분들의 증언을 꼭 기록으로 남겨놓아야 한다는 것을 절실하게 느꼈다.

우리는 우리 나라와 일본간의 불미스러운 과거를 깨끗이 청산하고 동북아시아의 평화와 번영의 서막을 열기 위해, 또한 자기들의 역사적뿌리를 알고 조선민족으로서의 존엄을 지켜나가기 위해 증인수집활동을 비롯한 진상규명연구에 계속 정력을 다해나갈 결심을 가다듬고있다.

마지막으로 <강제련행진상조사단>의 협력아래 북과 남, 재일의 대학생들로 공동연구회를 조직하여 서로 정기적으로 만나가면서 연구활동을 벌려나갈 것을 제기하면서 글을 맺자고 한다.

일본의 강제련행범죄 분과토론회에서 할 발언문

(제안자: 손철수 서기장)

나는 이 분과토론회에서 일본에 의한 강제련행 및 강제로동범죄를 하루빨리 공정하게 청산하는데서 나서는 몇가지 실천적대책과 관련하여 보충적으로 발언하려고 합니다.

여러 대표들도 지적한바와 같이 과거에 구일본국과 관련기업체들이 조선을 비롯한 아시아인민들을 대상으로 감행한 강제징발 및 노예로동과 그로 인하여 초래된 집단학살만행이 역사에 그 류례를 찾아 볼수 없는 중대하고 가혹한 인권침해죄로 되며 그 책임이 국제법적원리에 따라 그를 계승한 현 일본정부는 물론 그와 관련된 후신기업체들에도 있다는것을 다시금 명백히 실증해주고있습니다.

일본이 패망한때로부터 근 59년이 지난 오늘까지도 방치되고 있는 강제련행 및 강제로동범죄로 인한 과거피해자들의 인권회복의 심각성과 그 해결의 절박성을 국제사회계에 널리 알리는것은 일본의 중대인권유린범죄를 청산하기 위한 운동에서 나서는 가장 중요한 문제의 하나로 된다고 생각합니다.

새 세기에 들어선 오늘 일제의 군사적강점시기에 강제련행된 조선인피해자들과 관련한 42만여명의 명단이 공개된것으로 하여 일본의 강제련행범죄의 철저한 진상규명을 요구하는 목소리가 북남조선과 일본에서 더욱 높아가고있으며 그 범위는 날을 따라 확대되고있습니다.

따라서 우리 북과 남, 일본의 해당단체들에서 이 명부에 기입되어 있는 피해자들에 대한 조사확인사업을 더욱 심화시키고 생사여부와 피해실태가 확인된 피해자들에 대하여서는 그 조사정형을 서로 통보하면서 구일본정부와 기업체들에 의하여 감행된 강제련행범죄를 사건별로 하나하나 해명해나가기 위한 활동에 적극 나서야 할것입니다.

오늘 일본의 강제련행과 관련한 진상조사사업에서 기본은 일본정부와 기업체들이 보관하고 내놓지 않고 있는 자료들을 공개하도록 압력을 가하는것입니다.

이를 위하여 우리는 지난시기보다 해당단체들사이의 연계와 련대를 더욱 강화하고 일본의 특대형인권유린범죄의 진상을 철저히 규명할것을 일본정부와 기업체들에 요구하는 활동을 공동으로 전개해나감으로써 일본정부와 기업체들로 하여금 그 진상을 규명하지 않고서는 배겨내지 못하도록 하여야 할것입니다.

최근 일본에서 니이가타지방법판소가 늦게나마 일제에 의하여 저질러진 중국인 강제련행 및 강제로동범죄와 관련하여 그 피해자들과 유가족들이 일본정부와 관련기업체를 상대로 기소한 재판에서 일본정부와 관련기업이 원고들에게 배상하도록 판결을 내린것은 비록 일본의 지방재판소이기는 하지만 처음으로 저들의 강제련행 범죄에 대한 국가적책임을 법적으로 인정하였다는 측면에서 주목할만한 일입니다.

그러나 과거청산에 대한 일본정부의 불성실하고 그릇된 태도와 립장으로 보아 앞으로 일본의 최고재판소가 이 문제를 최종적으로 공정하게 판결하리라는것을 기대하기는 어려울것입니다.

법적소송활동은 일본인민들에게 과거의 반인륜적범죄를 폭로하고 그에 대한 죄의식을 심어주며 그 해결을 요구하는 국제적인 여론을 환기시키는데서 일정한 효과가 있으리라고 봅니다.

이와 관련하여 우리는 현재 심리중에 있는 보상청구소송들에 대해 지지성원하는 것과 함께 앞으로 아시아피해국과 지역의 강제연행피해자들로 원고단을 무어 일본정부나 관련기업체들을 상대로 공동소송을 일으켜 법정투쟁을 벌려 나가는 문제도 협의하면 좋을 것입니다.

다음으로 유엔인권위원회를 비롯한 국제기구들에 이미 제기된 보고와 권고, 결의들을 일본당국에 성실히 이행할것을 요구하는 활동을 벌려나가는 것이 필요하다고 생각합니다.

이와 관련하여 유엔인권위원회와 국제노동기구에 일본의 전시죄행을 추궁하고 그 피해자들의 명예와 존엄을 회복시키기 위한 문제를 전문으로 담당하는 분과를 별도로 설치하며 그들이 조선을 비롯한 아시아의 모든 지역에서 구일본국에 의한 피해상황과 일본에 보관되어 있는 일체 과거문건과 자료들을 조사집계하기 위한 조사단을 조직하는 문제에 중심을 두고 이를 실현하기 위한 사업을 힘있게 전개해야 할 것입니다.

이 실현을 위하여 《일본의 과거청산을 요구하는 국제연대협의회》가 자기 대표들을 유엔인권위원회의 총회나 분과회의들에 직접 파견하여 이 문제를 강하게 제기하거나 회의장밖에서 관계자들을 만나 사업하는 등 유엔인권위원회 관계자들과의 교섭활동을 능란하게 벌리며 《국제연대협의회》의 해당단체들이 자기 나라와 지역의 노동조합관계자들로 하여금 국제노동기구에서 우리의 요구가 관철되도록 하기 위한 적극적인 대책을 강구해나가야 할 것입니다.

국제기구들에 이러한 분과가 설치되게 되면 우리의 공통된 목적실현에 보다 유리한 조건이 지어지게 될 것이며 이와 반면에 일본당국에 있어서는 또 하나의 큰 타격으로 될 것입니다.

이러한 대책적문제들을 실천에 옮기기 위해서는 반드시 《일본의 과거청산을 요구하는 국제연대협의회》의 기능과 역할을 결정적으로 높여야 합니다.

지금 일본당국과 관련기업체들은 세계 여러 나라와 지역에서 일본의 과거청산을 요구하여 활동하고 있는 해당단체들과 인사들이 굳게 뭉쳐 조직적인 성격으로 나오는것을 제일 두려워하고 있습니다.

우리가 벌린 지난 10여년간의 운동경험은 매개 나라와 지역의 해당단체들과 인사들이 서로 보조를 맞추고 연계와 연대성을 강화할때 보다 큰 위력을 발휘할수 있다는것을 잘 보여주었습니다.

이러한 실천적경험에 기초하여 바로 우리가 지난해 9월에 상해에서 《일본의 과거청산을 요구하는 국제연대협의회》를 결성하게 된것만큼 여기에 더 많은 시민단체들, 각계인사들을 망라시키고 《국제연대협의회》조직을 더욱 확대강화해나가므로써 국제무대에서 영향력을 행사할수있는 단체로 만들어 나가야 할 것입니다.

그리고 《국제연대협의회》활동목적에 맞게 여러 가지 형식의 국제적인 회합

을 소집하고 이미 협의결정된 일본의 반인륜적범죄를 폭로규탄하고 일본당국을 사죄와 보상으로 몰아 가기 위한 방도적문제들에 대한 실행정형을 총화대책하고 그를 철저히 집행해나감으로써 《국제연대협의회》사업을 보다 활성화해나가야 합니다.

당면하게 우리는 오는 9월경에 평양에서 《일본에 의한 과거피해자들의 국제연대성집회》(가칭)를 개최할것을 정식 제안하는바입니다.

우리는 이 국제연대성집회가 과거피해자들이 일제의 야수성과 포악성을 단죄하는 고발장으로, 일본의 과거죄행에 대한 원한을 터치는 마당으로 되게 함으로써 국제사회에 과거피해자들에 대한 인권회복의 절박성을 호소하고 피해자들과 해당단체, 인사들사이의 국제적연대성을 더욱 강화하는 계기가 되기를 기대합니다.

이와 관련하여 이 국제연대성집회를 《국제연대협의회》의 사업으로 간주하고 결실있는 국제적인 회합으로 만들기 위한 준비사업에 큰 힘을 넣어야 할 것입니다.

우리는 본 분과토론회에서 일본에 의한 과거피해자들이 더 세상을 떠나기전에 하루라도 빨리 그들의 명예와 존엄을 회복시키는데 기여하는 현실성있는 대책적문제들이 충분히 협의결정되기를 기대하면서 토론을 끝마치려고합니다.

발표 : 남한 한국위원회 이신철(실행위원)

일본의 역사외곡문제 분과토론회에서 할 발언문

(제안자 : 계성훈 부서기장)

나는 본 분과토론회에서 일본당국과 우익보수세력들의 역사외곡 및 군국화책동을 저지
파탄시키는데서 나서는 몇가지 방도적인 문제에 대하여 언급하려고합니다.

이미 지적된바와 같이 최근 일본에서의 역사부정 및 군국화책동은 역사교과서개악과
《야스구니진자》 참배공식화, 《자위대》의 해외파병, 유사시법제정, 헌법개악 등 정치적, 문화
적, 사회력사적, 군사적 등 모든 분야에서 나타나고 있으며 그것은 매우 위험한 단계에 이르
고있습니다.

이로 부터 우리는 일본의 중대인권유린범죄를 청산하기 위한 운동과 함께 일본당국과
우익세력들의 과거침략사의곡 및 군국화책동을 배격하기 위한 운동을 밀접히 결합시켜 나
가는것이 중요하다고인정합니다.

오늘 일본당국과 우익세력들의 추악한 역사외곡음모에서 주목되는것은 《새 역사교과
서를 만드는 모임》이 2005 년에 있게 될 교과서검정에서 이미 집필편찬한 외곡된 중학교
용역사교과서를 기어이 채택하여 일본의 교육현장전반에 도입해보려고 악랄하게 책동하고
있는것입니다.

이와 관련하여 우리는 일본의 극우익단체에 의하여 외곡편찬된 역사교과서가 교육현장
에서 사용되지 못하도록 그를 반대배격하는 활동을 지금부터 힘있게 벌려 나가는것이 중요
하다고봅니다.

우리의 해당단체들에서는 매개 나라와 지역에서 이러한 외곡된 역사교과서채택의 본질
과 위험성을 까밝히기 위한 선전활동과 함께 매개 나라 정부가 일본정부에 외곡된 역사교
과서채택을 중지할것을 요구하도록 요청하는 활동도 실정에 맞게 밀고 나가야 합니다.

특히 《일본의 과거청산을 요구하는 국제연대협의회》가 여러 활동공간을 리용하여 일
본의 진보적세력들과 함께 일본당국에 외곡된 역사교과서채택을 당장 중지하고 그것을 개
정할것을 요구하는 집회와 시위조직, 성명발표 등 공동투쟁을 조직전개함으로써 일본당국에

국제적인 압력을 가하도록 하여야 합니다.

일본에서의 역사외국책동을 저지파탄시키기 위해서는 또한 구일본정부와 군부에 의하여 저질러진 반인륜적범죄를 폭로하는 과거피해자들의 증언을 통하여 자라나는 새 세대들을 비롯한 일본인민들에게 가해자로서의 죄의식을 심어주기 위한 활동을 벌리는것이 필요하다고 생각합니다.

이것은 새 세대들을 비롯한 일본인민들에게 침략전쟁의 범죄성과 위험성, 그로부터 초래되는 파국적인 후과를 자각시키고 범죄적과거가 다시는 되풀이되지 않도록 심각한 교훈을 주는데서 매우 효과적인 방도의 하나라고 봅니다.

이를 위하여 《국제연대협의회》가 일본의 중대인권유린범죄로 인한 과거피해자들과 유가족들의 구천에 사무친 원한과 분노를 일본을 비롯한 국제사회계에 널리 알려주기 위하여 증언집회를 비롯하여 그들이 증언할수 있는 계기를 자주 조직하여야 할것입니다.

당면하게 오는 9 월경에 평양에서 개최되는 《일본에 의한 과거피해자들의 국제연대성집회》(가칭)를 성사시키기 위한 준비사업에 한사람같이 떨쳐나서야 합니다.

최근 일본정계와 사회계에서는 군국주의침략사판을 버리지 않고 과거의 죄악을 정당화하며 군국주의분위기를 조장하는 언동들이 여러가지 형태와 양상을 띠고 빈번히 나타나고 있습니다.

여기서 간과할수 없는것은 일본당국과 우익세력들이 자국민들속에 우리 공화국에 의한 《위협설》을 대대적으로 고취시키면서 그를 교묘하게 리용하여 국회에서 해외침략을 위한 법적담보를 마련하기 위해 획책하고있는것입니다.

우리의 해당단체들에서는 일본에서 광란적으로 벌어지고 있는 반공화국모략선전소동이 일본당국과 우익세력들의 군국화실현을 위한 의도적이고 계획적인 책동의 일환이라는것을 꿰뚫어 보고 그들의 악랄한 반공화국모략소동을 파탄시키기 위한 투쟁에도 힘을 넣어야 할것입니다.

이와 함께 우리는 일본의 우익보수정객들과 극우익단체들의 반인륜적, 반력사적언동들에

대하여 절대로 허용하지 말고 그때마다 크게 문제시하여 이를 강하게 추궁하면서 그들의 언동들을 반대배격하는 국제적인 연대투쟁을 강화해나가야 합니다.

일본의 역사외국 및 군국화책동을 저지파탄시키기 위한 운동은 일본사회에서 군국주의 부활을 막고 정의와 민주주의를 확립하기 위한 민족적인 투쟁인것만큼 여기에서 기본은 일본인민들자신이라고 생각합니다.

전쟁을 반대하고 평화와 정의를 귀중히 여기는 일본의 진보적세력들은 앞으로 이 투쟁에서 주인이라는 자각을 가지고 자라나는 새 세대들을 비롯한 일본인민들이 침략과 범죄의 과거력사를 똑똑히 알고 선조들의 전철을 다시는 밟지 않도록 하며 반인륜적과거범죄를 청산하기 위한 운동에서 결정적인 역할을 하도록 꾸준히 활동해나가야 할것입니다.

끝으로 나는 《국제연대협의회》에 망라된 해당 단체들이 앞으로 일본의 진보적세력들과 서로 굳게 연대하고 단결하여 일본당국의 과거청산회피책동과 군국화책동을 저지파탄시키기 위한 운동을 힘있게 벌려 나가므로써 일본의 불미스러운 과거가 청산되고 전쟁이 없고 평화로운 아시아를 건설하는데 적극 이바지해 나가리라는 기대와 확신을 표명하는바입니다.

[자료]

일본 역사왜곡 문제의 현황과 한국의 대응

1. 배경

가. 역사왜곡의 역사

- 1) 제1차 교과서 공격 : 1955년 일본민주당은 총선거에서 '자주헌법 제정·자위군창설·국정교과서 통일'을 공약으로 내걸고 팜플렛 『우려할 교과서문제』 제1~3집을 발표하여 검정에 합격한 역사교과서 비방공격. '침략' 표현의 후퇴가 특징
- 2) 제2차 교과서 공격 : 1979년부터 자민당은 국제승공연합과 함께 『신 우려할 교과서문제』 발행. 이에 나아가 교과서 소송으로 개선되기 시작했던 교과서는 다시 강한 검정을 받음. '침략'을 '진출'로 서술한게 문제가 되어 아시아 각국의 항의를 받고 '근린제국조항' 신설
- 3) 제3차 교과서 공격 : 1990년대 이후 일본사회의 우경화를 바탕으로 정·재·학·언론계 등의 지원하에 교과서 개정운동. '위안부', '남경대학살' 불인정과 '대동아전쟁' 긍정론 등 한국과 중국 등 각국의 강력한 수정요구

나. 역사교과서 왜곡 파문 : 한국 관련

- 1) 1986년 『신편일본사』 : 일본 문부과학성의 네 차례 시정 권고 - 정정권고권
- 2) 눈감아 준 1994년 : 1991년 김학순 할머니의 '위안부 고백' 등 변화된 상황을 반영하여 1994·1995년의 교과서 검정에서는 '위안부' 문제의 기술 등 식민지 지배의 잘못에 대한 기술이 대폭 반영. 『최신일본사』는 양과 질에서 평균 수준에 현저히 못미침
- 3) 2001년 새로운 역사교과서를 만드는 모임의 『새로운 교과서』(扶桑社)의 출현 : 식민지 전쟁의 타당성 강조, 위안부 문제 삭제, 전쟁긍정론 등
- 4) 2002년 일본회의의 『최신일본사』 검정: 옷만 바꿔 입은 『신편일본사』의 재검정통과 독도영유권 주장, 전쟁미화, 일본의 헌법개정 요구 등 더 심각한 왜곡 현상

다. 일본 역사왜곡의 주역들

- 1) 새로운 역사교과서를 만드는 모임(www.tsukurukai.com)
 - 1997년 1월 니시오 간지, 후지오카 노부카스 등이 새역모를 결성
 - 종래의 교과서를 자학사관이라고 비판하면서 자유주위 사관의 역사교과서를 만드는

운동 시작

- 산케이 신문의 전면적 지원과 자민당 내 의원모임, 우익기업들을 통해 새역모 지원
- 2) 일본회의(日本會議-http://www.nipponkaigi.org)
 - '일본을 지키는 국민회의'와 '일본을 지키는 회'가 1997년 5월 30일 통합하여 '일본회의'를 결성
 - 설립대회에는 국회의원 100여 명을 비롯해 종교계, 학계, 경제계 등 약 1,000여명 참석
 - '일본을 지키는 국민회의'는 『신편일본사』의 추진주체로 일본회의로 계승

2. 현황과 대응 (2001~2003)

가. 계속되는 일본의 교과서 역사왜곡

1) 중학교 후소샤 교과서 채택상황

- 2001년 처음으로 검정본 제출, 검정합격, 2001년 학교현장에서 사용
- 한국과 일본 시민단체들의 불채택운동으로 0.039%(521권)의 채택률에도 못미침
- 동경과 에히메현 등에서 채택되었으나 2002년 에히메현 중고일관교에서 채택
- 새역모측 4년마다 있는 중학교 역사교과서 검정을 대비해 2005년 화려한 '복수' 주창

2) 고등학교 『최신일본사』 채택상황

- 1986년 검정합격(문부성의 지시로 4차례 수정), 1987년부터 학교현장에서 사용
- 1993년 國書刊行會에서 『最新日本史』로 이름을 바꿔 1994년 검정합격
- 2001년 明成社에서 『最新日本史』 고등학교 교과서 검정신청
- 2002년 4월 9일 검정합격이후 1.83%(1,056권,신판) 채택, 2003년에도 계속 채택예정

3) 초등학교 도덕교과서 교재인 『마음의 노트』 문제시

- 『최신일본사』의 집필주체인 <일본회의>가 초등학교 도덕교과서 형식인 『마음의 노트』의 채택과정 개입
- 문부과학성이 『마음의 노트』를 교재로 결정

나. 한국의 대응

1) 한국정부의 대응

- 주일대사 소환 및 유감성명 발표, 대책반 구성(대책반장 교육인적자원부 차관)
- 역사전문가 교과서 왜곡 정밀분석, 재수정 35개항 요구서 일본정부에게 전달

2) 국회 및 지방자치단체의 대응

- 국회, 일본국의 역사교과서 왜곡 중단 촉구 결의안 통과 및 일본대사관 항의방문

- 국회의원, 일본 법원에 후소사 교과서 출판 가처분금지 소송
- 지방자치단체 및 의회 후소사 교과서 불채택 촉구서한 전달

3) 민간단체의 대응

- 2001년 4월 일본교과서바로잡기운동본부 창립(시민사회, 학계 등 총 86개 단체 참여)
- 후소사 교과서 불채택운동을 일본의 시민단체와 연대하여 0.039% 채택률
- 아시아연대회의 개최 : 아시아 7개국이 일본의 역사왜곡에 공동대응 결정
- 학술심포지엄, 캠페인, 교육강좌 개최를 통한 지속적인 학술활동, 대중활동 전개
- 일본정부에게 일본의 교과서 역사왜곡에 관련한 재수정 요구안 전달
- 한국정부에게 각종 정책건의서 전달
- 일본 역사왜곡을 계기로 한국교과서에 대한 자성적 문제제기 : 한국사 심포지엄 개최

다. 동아시아의 대응

1) 긴밀한 한일 연대활동

- 불채택운동의 지속적 전개 : 후소사 교과서 및 『최신일본사』 불채택운동 전개
- 에히메현에서 진행되는 후소사 교과서에 대한 손해배상청구 소송 지원 : 한국측 원고 단 57명
- 한일연대 캠페인 전개 : 일본의 각 시민단체들과 연대(도쿄, 오사카, 니가타, 히로시마 등)

2) 과거사 청산을 요구하는 남·북·일 연대활동

- 일제 강점하 피해자들과의 긴밀한 연대활동 : 일본군 위안부, 일제 강제징용 및 징병 등
- 2002년 5월 평양에서 '일본의 과거사청산을 요구하는 아시아대토론회' 참여
- 2003년 4월경 제2차 남북일 국제회의 개최

3) 동아시아 역사인식 공유를 위한 한·중·일 연대활동

- '역사인식과 동아시아평화포럼'의 지속적 개최 : 제1회 남경대회(2002.3), 제2회 동경대회(2003.2), 제3회 서울대회(2004.8 예정)
- 한·중·일 역사공동부교재 개발 : 3국에서 공동으로 사용하는 역사부교재 개발
- 한·중·일 시민단체와 학계간의 인적 네트워크 구축 및 교류활동

라. 한일 양국간 합의 : 한일역사공동연구위원회(이하 역사공동기구) 설치

- 1) 2001년 10월 일본의 교과서 역사왜곡 문제를 해결하기 위해 역사공동기구 설립 합의
- 2) 2002년 5월 양국 역사공동기구 설립하여 향후 2년간 활동
 - 교과서문제와 역사인식은 별개의 문제라고 합의
- 3) 교과서운동본부, 역사공동기구 활동에 대한 정책건의서 전달

3. 문제점

가. 일본 내 유사법제 추진과 역사왜곡, 일본총리의 야스쿠니 신사참배 문제가 갖는 연계성과 총체성이 분명하게 드러나지 않음

- 일본 왜곡교과서는 노골적으로 독도의 영유권을 주장하고 전쟁을 찬미
- 일본의 유사법제 추진 등 군국주의화 경향은 바로 역사왜곡문제와 직결

나. 계속되는 일본의 역사왜곡의 심각성에 대한 전국민적 공감대가 확산되지 않음

- 2001년 중학교, 2002년 고등학교, 2003년 초등학교 교과서에 대한 왜곡의 연계성
- 역사교과서만이 아닌 가정, 지리, 공민 등의 타 교과서에 대한 왜곡

다. 단발적인 한국정부의 대응

- 충분한 근거를 확보하지 못한 상태에서 진행된 한국정부의 재수정 요구안 제출
- 모양만 강경한 실속없는 정부의 대응책 : 초기만 재수정 요구, 나중에는 외면
- 갈수록 줄어만 가는 한국정부의 역사왜곡 관련 예산 편성

라. 일본의 역사왜곡에 대한 한국정부 내 불분명한 책임주체

- 정부는 역사왜곡 대책반 관련업무를 역사공동기구에 승계하였으나, 역사인식 문제로 한정된 역사공동기구의 역할과는 차이, 2005년 5월 한일간의 합의된 시기 만료
- 정신문화연구원(이전사업은 교육개발원)은 '일본의 역사왜곡 및 한국바로알리기 사업'을 담당하나 일본의 역사왜곡에 대한 정부의 책임적 주체는 아님

마. 민관협력이 충실하게 이루어지지 못함

- 일본의 역사왜곡에 대한 정부 - 정부 산하 기관 - 시민단체간의 정보공유의 부족
- 시민단체에 대한 예산 지원 등 적극적인 지원이 이루어지지 못함

4. 해결방향

가. 한국정부의 근원적 발상 전환 필요

- 1998년 21세기 한일파트너십 공동선언은 계속되는 일본의 역사왜곡, 야스쿠니신사참배로 공염불이 됨
- 2002년 한일월드컵 공동개최로 과거 청산보다는 미래지향에만 초점을 맞춤
- 한국정부는 경제적 협상물로 과거사 청산문제를 이용하기보다는 역사인식의 차원에서 일본의 역사왜곡에 관련한 한국정부의 분명한 의지를 천명해야 함

나. 지속적이고 장기적인 대응책 마련

- 일본의 역사왜곡에 대응하기 위한 장기적인 대응책 마련 시급
- 민-관 협력, 또한 시민단체-학계-교사들간의 종합적 민간 네트워크 구축의 필요

- 남북-중-일 연대를 통해 일본정부를 구체적으로 압박할 수 있는 방안 마련

다. 실질적 효과를 거두는 역사공동기구 활동

- 역사공동기구가 일본의 역사왜곡 문제의 재발방지를 위한 확실한 책임주체가 되어야 함
- 연구결과에 대한 학계와 시민단체 등과의 공청회를 통해 다양한 의견을 수렴
- 지속적이고 장기적으로 대응할 수 있는 국가 기구 존속 필요

라. 동아시아 공동인식 형성의 필요

- 한중일 공동부교재 개발을 통해 제국주의와 패권주의를 막고 평화와 인권을 존중하는 동아시아의 공동의 역사인식을 만들어내야 함
- 한일, 한중일, 남북간 역사연구의 활성화를 통해 공동의 역사인식에 접근하고 인적 교류를 활성화

마. 한국사 교육과 교과서 제도 개편

- 역사과에 대한 독립된 과목 편제와 국정 교과서의 조속한 폐지
- 정부통제를 최소화하고 검정제도가 잘 운영될 수 있는 연구기구 마련 및 재정 지원

바. 시민단체에 대한 적극적 지원을 통해 민간차원에서 적극적인 사업을 하도록 해야함

- 관련단체 및 연구단체 지원

사. 청소년에 대한 장기 플랜 형성

- 동아시아 역사인식의 공유는 동아시아의 청소년층에 대한 교육적 배려를 통해 가능
- 운동본부가 진행하고 있는 한중일 청소년역사체험캠프를 통해 다양한 교류 전개
- 누구나 쉽게 이해하고 알 수 있는 교육자료 필요

아. 2005년 교과서재검정에 대한 구체안 마련

- 2005년 4월 후소사 교과서 등 재검정에 대비한 한중일 시민단체들의 연대활동 (한중일시민단체 활동가 전략회의 계획)
- 정부와 시민단체, 지방자치제간의 긴밀한 연대 활동 필요

전체도론 | 공동성명서 채택

아직도 끝나지 않은 이야기

- 비디오와 증언으로 보고 듣는 일제 피해 문제 -

[◆ 일시 | 2004. 5. 21(금) 12:00-21:00 ◆ 장소 | 여성프라자 4층 시청각실 ◆ 대상 | 국내외 참가자와 일반시민, 학생]

- [비디오 상영회]** 12:00~12:40 "평양에서의 고발" (한원상, YTN, 37분)
 12:50~13:50 "아리랑 고개를 넘어서" (이토 다카시, 45분)
 13:50~14:10 "일본군 위안부 피해자의 절규" (북한 비디오, 20분)
 14:10~15:30 "귀향"(정신대연구소, 60분)
- [한민족 피해자 증언]** 16:00~16:20 "황중수 할아버지의 증언" (북한, 강제동원 피해자)
 16:20~16:40 "정운모 할아버지의 증언" (재일, 강제동원 피해자)
 16:40~17:00 할아버지! 물어볼 게 있는데요.
 17:00~17:20 "이옥선 할머니의 증언" (남한, 일본군 '위안부' 피해자)
 17:20~17:40 "정진도(정천타오) 할머니의 증언" (특별증언, 대만, 일본군 '위안부' 피해자)
 17:40~18:00 할머니! 이것 좀 대답해주세요.
- [특별 영화상영]** 18:30~21:00 나운규 "아리랑" (복원 필름 상영)
- [종일 상영]**
- "미래를 여는 역사"- 일본교과서바로잡기운동본부
 - "할머니들의 명예와 인권을 위해"- 일본군위안부: 한국정신대문제대책협의회
 - 상영장소: 1층 로비

한민족 증언

이옥선 (남한) 일본군 '위안부' 피해자

황중수 (북한) 강제연행 피해자 • 1994년 5월 강원도 창도군 오천리에서 일제에 의하여 강제징용 • 5월 20일경부터 7월초까지 홋카이도 오파루의 건설장에서 강제노동 • 7월 중순 1,000여명의 조선청장년들과 함께 하던 중 배가 미국의 어뢰에 맞아 침몰되고 그 속에서 구사일생로 살아남아 숨쉬도로 끌려감. • 1944년 11월까지 숨쉬도에서 군용비행장건설 강요당함.

정운모 (재일) 강제연행 피해자 • 1921년 11월 충북 청주군 출생. 현재 일본 지바현 지바시에 거주 • 1942년 2월 일본 도치기현의 후루카와 광업소 아시오동산에 연행됨. • 1993년 5월 강제연행피해자로서 처음으로 유엔인권소위원회 현대노예제작업부회에서 증언함. • 이후 유엔에서는 조선인 강제연행을 <노예유사관행>이라고 규정함. • 1997년 5월 일본변호사연합회에 인권구제 신청 • 2002년 10월 일본변호사협회는 고이즈미 수상에게 강제연행피해의 진상규명과 피해회복을 위한 조치를 강구하라고 권고함.

정진도 (대만) 일본군 '위안부' 피해자

1

귀향(歸郷)

- 제작 | 한국정신대연구소, 2003년, 50분, 한국
- 내용 | 일본군 '위안부'로 끌려가 한국으로 돌아가지 못하고 60년 동안 중국에서 살아온 위안부 할머니의 이야기를 담은 다큐멘터리

2

아리랑 고개를 넘어서

- 제작 | 아리랑 고개를 넘어서 제작상영위원회, 2003년, 45분, 일본
- 감독 | 이토 다카시
- 편집 | 고바야시 야츠시 외
- 내용 | 북한의 위안부 피해자 광금녀 할머니의 일상생활을 취재한 다큐멘터리. 할머니의 집으로 찾아간 일본인 감독은, 할머니의 삶 속에서 피해자의 고뇌를 한 단계 승화시킨 조선여성의 모습을 보았다.

3

평양에서의 고발

- 제작 | YTN, 2003년, 37분, 한국
- 촬영 | 한원상
- 내용 | 강제로 징용당한 이산가족의 실태와 일제의 만행을 고발한 다큐멘터리. 일제에 의해 강제징집 후 복송선을 탄 올해 78세 백제인씨와 남쪽에 남은 백수인씨 형제가 2003년 9월 헤어졌지 61년만에 평양에서 극적으로 상봉하는 장면을 카메라에 담았다.

4

일본군 '위안부' 피해자의 절규

- 제작 | 북한 조선 일본군 '위안부' 및 태평양피해자보상대책위원회, 2003년, 북한
- 내용 | 북한에 생존해있는 일본군 '위안부' 피해자를 비롯한 일제피해자들의 생생한 육성 증언 및 피해사실을 기록한 다큐멘터리

5

할머니들의 명예와 인권을 위해 - 일본군 '위안부'

- 제작 | 한국정신대문제대책협의회, 2004, 23분, 한국
- 내용 | 나레이션을 하신 일본군 '위안부' 피해자 길원옥할머니는 매주 수요시위에 나오신다. 3월 17일 (X)차 수요시위를 맞아 시위장으로 향하는 차를 타신 할머니, 할머니의 나레이션을 따라 과거 (X)년대 여성운동의 현장으로 간다.

6

'미래를 여는 역사'(부제 - 일본 역사왜곡의 진실을 찾아서)

- 제작 | 일본교과서바로잡기운동본부, 2003년, 30분, 한국
- 내용 | 일본 역사왜곡의 배경, 본질, 내용, 이에 대응하는 한국을 비롯한 동아시아 국가와 교과서운동본부의 활동 등 시민단체들의 활동을 종합적으로 구성

그림 전시



버섯공출



책임자를 처벌하라



베아트릭 순정



끌려감



중국에서



재일공출



못다핀 꽃



리바올 위안소

* 이 그림은 나눔의집 피해자(강덕정, 김순덕, 배춘희)들이 직접 그리신 작품입니다. 나눔의집의 도움·원조로 전시되었습니다.

치유를 위한 '울림' 시나리오

출연 | 노래패 우리나라 · 밴드 홀리건 · 소리꾼 정상규 · 무용가 임응희 · 그리고 순이와 덕보

#1 (오프닝 테마) BGM 짙레꽃

무대와 객석 모두 어둡게 암전 상황에서 어디선가 들리는 구슬프게 내리는 자그만 빗소리. 빗소리 점점 크게 울려 퍼져 무대를 꽉 채우며 메인 타이틀 영상이 시작, 그리고 '짙레꽃' BGM이 흐른다. 메인 타이틀 영상은 일제 강점기의 수탈당한 민족의 고달픈 삶을 세피아 컬러의 빛 바랜 듯한 이미지로 최대한 따뜻한 시선에 담는다. '짙레꽃' BGM의 멜로디에 맞춰 영상은 디졸브로 연속적 연결을 보여 준다. BGM이 끝날 무렵 타이틀 '울림'이 뜬다.

#2 (애달픈 사랑) BGM 꼭두각시

무대가 점점 밝아지고 BGM으로 '꼭두각시'가 경쾌하게 흐른다. 이 때 암전 상황에서 무대 가운데 대기하고 있던 순이가 음악이 시작됨과 동시에 마치 인형극의 인형이 움직이듯 약간 끊어지는 동작으로 유쾌한 춤사위를 보인다. 개나리 꽃 만발한 언덕에서 혼자 꽃놀이를 즐기는 듯한 장면이 연출될 때 무대 끝에서 덕보 등장. 덕보는 누가 곁에서 지켜보고 있는 지도 모른 채 혼자서 천진난만하게 놀고 있는 순이 뒤로 살금살금 다가간다. 갑작스레 뒤에서 순이 눈을 가리고 순이는 화들짝 놀래 몸을 일으킨다. 평소 동네 어른들의 눈을 몰래 몰래 피해 서로 연모하던 두 사람. 단 둘의 시간을 달콤하게 보내기 위해 덕보는 순이 옆에 찰싹 달라붙어 앉는다. 이 때 빼진 듯 몸을 빼고 고개를 돌리는 순이. 순간 당황한 덕보는 순이 앞에서 애원하지만 외면해 버린다. 어찌할 줄 모르는 덕보 잠시 생각하다 곧 미소를 짓고선 순이에게 다가간다. 토라진 순이의 마음을 달래기 위해 덕보는 코믹하게 갖은 재롱을 보여준다. BGM의 리듬에 맞춰 우스꽝스런 춤을 추거나 과장된 일련의 행동을 보여준다. 이런 모습을 가만히 보고 있던 순이 살며시 미소짓기 시작한다. 이 때를 놓치지 않는 덕보. 순이에게 다가가 순이를 감싸 안고선 언제 꺾였는지 모를 조그만 꽃 한 송이를 머리에 꽂아 준다. 행복한 듯이 환하게 웃는 순이. 그리고 부끄러운 듯 옷춤에서 지수 손수건을 덕보에게 건넨다. 마치 사랑을 맹세하는 듯한 정표 마냥 빛나 보이는 손수건. 소중히 받는 덕보 이때 두 사람의 손을 맞잡고 마주 보며 분위기를 무르익는다. 두 손을 맞잡고 행복한 표정으로 퇴장하는 순간 무대 끝의 사무라이와 마주친다.

#3 (제국의 발톱) BGM 군화발 소리, 4비트 복소리

마치 귀신처럼 홀연히 등장한 사무라이. 성큼 성큼 순이와 덕보에게 다가와 위협적인 행동을 보인다. 놀라서 물러서는 두 사람. 사무라이는 검을 뽑더니 바로 내리칠 것만 같은 자세로 겨누고 어쩔 줄 몰라하는 두 사람 주위를 원형으로 맴돈다. 마치 주술을 말하듯 알 수 없는 선 듯한 목소리로 중얼거리며 광인 마냥 노려본다. 사무라이의 위협에 순이는 겁에 질려 벌벌 떨고 있고 덕보는 그런 순이를 안심시키기 위해 감싸 안고 있다. 사무라이의 위협적인 행동은 도를 지나치고 생명이 위협함을 느끼는 그 순간, 갑자기 폭탄이 터지는 듯한 천둥소리가 들리고 조명은 꺼지고 커지기를 반복하며 혼란과 공포의 분위기를 조성한다. 궁지에 몰린 남녀는 마치 벼랑 끝에 몰린 듯 어찌할 줄 모르다 객석 쪽으로 간신히 피신하며 무대 밖으로 숨는다.

#4 (충성하라)

사무라이는 무대 밖으로 사라진 남녀를 다시 한번 무섭게 바라보며 검을 휘두르고 공포 분위기를 유발하는 행동을 취한다. 그런 다음 마치 군인 마냥 자세와 복장을 고쳐 잡고는 객석을 향해 커다란 목소리로 외치기 시작한다. "다이니쁜데이코쿠니 슈세이오(대일본제국에 충성하라)"를 계속 반복한다. 사무라이의 목소리는 점차 다중으로 겹쳐지게 되고 매아리가 되어 장내를 크게 울린다. 사무라이의 등뒤로 군국주의 일본의 국기가 펼쳐진다.

#5 (공포)

갑자기 사이렌 소리가 크게 울리며 조명이 다시 점멸을 반복한다. 그리고선 무대와 객석 전체가 암흑으로 변한다. 관객들이 갑작스런 어둠으로 불안해 할 무렵 객석 뒷문이 커다란 소리와 함께 환하게 열리며 4인의 일본 낭인들이 난입한다. 난입한 낭인들은 객석을 휘젓고 다니며 관객들에게 갖은 '화롱'과 '행패'를 부린다.

#6 (결박 그리고 이별)

낭인 4인이 객석에서 화롱과 행패를 부리다 무대 위 사무라이의 지시에 따라 남녀를 발견하고 2인 1조로 각각 남과 여를 결박하여 무대 위로 끌고 올라와 사무라이 앞에 주저앉힌다. 남녀는 몸부림치며 거세게 저항하지만 낭인 4인들이 머리를 휘어잡고 거칠게 때리며 위협을 가한다. 남녀에게 다가간 사무라이가 목검으로 여자의 턱을 치켜세우고 묘한 웃음을 흘리며 수치심을 유발하는 행동을 한다. 덕보는 고향을 지르며 저지하려고 하나 꼼짝할 수 없이 몸부림만 칠 뿐이다. 이런 모습을 비웃듯 사무라이는 덕보의 배를 검으로 가격하고 쓰러진 그의 몸을 발로 찬다. 사무라이가 4인의 낭인들에게 끌고 가라는 듯한 제스처를 하자 양쪽 무대 끝으로 낭인들이 덕보와 순이를 각각 다른 방향으로 끌고 간다. 줄지에 헤어지게 되는 두 사람은 무대 끝으로 끌려가면서도 안타까움과 슬픔에 가득 찬 눈빛으로 서로를 바라보며 절규한다. 낭인들에게 각각 다른 방향으로 무대 밖으로 끌려가면 무대는 암전된다.

#7 테마영상2 BGM 짙레꽃

장내는 암전과 함께 기적소리와 함께 기차가 이동하는 덜컹덜컹 소리가 들리고 영상은 어디론가 끌려가는 사람들의 모습을 담는다.

#8 (순이의 고난)

광기 어린 웃음소리가 장내를 울려 퍼지고 신경을 거슬리는 파괴적인 이미지의 음악이 흐른다. 4인의 낭인들은 순이를 둘러싸고선 옷을 찢거나 막대기로 찢는 등 여성으로서 수치심을 느낄만한 일이 벌어진다. 4인의 낭인들은 순이를 무참하게 화롱하다 나중엔 침을 뱉고 퇴장한다. 혼자 남겨진 순이는 피로워하며 슬퍼한다.

#9 (어머니 말씀)

이때 여성가수들 나와 어머니 말씀을 합창한다. 노래가 나오는 동안 순이는 모노드라마로 슬픔을 연기한다. 노래가 끝나면 조명이 꺼지고 여성가수들 퇴장한다.

"전너 마을 구두쇠 막내아들 나와 혼인해 함께 살자던
그 총각은 죽어서 돌아오고 올 오빠는 끌려가서 소식도 없다
어느 날 순사가 공장에 와서 친구들을 모두 다 끌고 갔단다.
돈 많이 벌 거라며 끌고 가서는 전쟁터의 위안부로 만들었던다"



우리는 모든 것을 빼앗겼단다 나중에 가진 것이 없으니까
마지막 하나 남은 몸뚱아리 그것마저 빼앗겼단다 빼앗겼단다
아들아 네가 커서 어른이 되면 남의 침략 받지 않는 나라 만들고
배고파 우는 사람 없게 하여라 추위에 떠는 사람 없게 하여라."

10 (인서트 영상)

태평양전쟁의 참혹상이 담겨진 사진들이 연결되어 보여진다. 일본이 태평양전쟁에서 군인들이 아시아 주변 국가들의 국민에게 저질렀던 만행과 비인도적인 행위들이 담긴 사진들이 조용하지만 구슬픈 음악 속에서 담담히 보여진다.

11 (덕보의 수난)

탄광노동자 차림으로 주저앉아 먼 산을 보다 품속에서 손수건을 꺼낸다. 곱게 접힌 손수건을 펼치면 순이의 사진이 들려있다. 순이의 사진을 한번 보고 먼 산을 한번 보며 그리움을 표현하는 덕보.
이때 사무라이가 무대 위로 등장(S.E. 공포스러운 사운드)하면서 처량한 덕보의 모습을 보더니 성난 목소리로 고향을 외치며 남자를 발길질하여 넘어뜨리고 뺨을 여러 차례 때린다. 이때 남자는 맞아가면서도 손수건과 사진을 품에 감싸 안으며 숨기려 한다. 이런 남자의 행동을 수상히 여긴 사무라이는 품을 강제로 헤치며 손수건과 사진을 빼앗는다. 손수건과 사진 그리고 남자의 얼굴을 번갈아 보고선 얼굴이 일그러진 사무라이는 손수건을 바닥에 내던진 다음 남자를 경멸스런 눈빛으로 쳐다보면 남자는 무릎꿇고 애원하며 돌려달라고 하지만, 사무라이는 잔인한 표정으로 손수건을 발로 짓이기고 손으로는 사진을 찢어서 무대 위로 날린다. 이때 분노한 남자가 사무라이에게 덤벼들지만 사무라이는 목검으로 남자를 후려치고 남자는 힘없이 고꾸라진다. 쓰러진 남자를 발로 밀어서 눕힌 후 발목을 한차례 짓이긴 다음 (남자는 비명) 사무라이가 퇴장한다.

12 (희망가)

조용히 남자 가수가 무대로 나와 나직한 목소리로 희망가를 부른다. 나머지 남녀 가수들이 화음을 맞춘다. 노래가 흐르는 동안 남자는 몸을 질질 끌며 땅에 떨어진 손수건을 어렵게 되찾고 통곡하며 슬퍼하는 퍼포먼스 진행. 배경 영상으로 위안부 할머니들이 그린 피해와 참혹함에 대한 자작화(초상화와 상징화)들이 연속적으로 흘러나온다.
"이 풍진 세상을 만났으니 너의 희망이 무엇이나 부귀와 영화를 누렸으면 희망이 족할까
푸른 하늘 맑은 달 아래 꿈꿈이 생각하니 세상 만사가 춘몽 중에 또다시 꿈같도다
이 풍진 세상을 만났으니 너의 희망이 무엇이나 부귀와 영화를 누렸으면 희망이 족할까
담소화락에 업병담병 주색잡기에 침몰하라 세상 만사를 잊었으면 희망이 족할까 희망이 족할까"

13 테마영상3 BGM 찔레꽃

암전된 장내에 화면에 태평양전쟁의 참혹한 영상과 원폭 투하 장면들이 배경음악 없이 흐르다 갑자기 치지직 거리는 소음이 들리더니 라디오 사운드로 일왕의 항복 선언이 흐르며 그 선언 위에 찔레꽃 BGM이 겹쳐서 점점 크게 들린다. 계속 이어진다.

14 (덕보의 죽음)

암전된 장내에 갑작스레 만세 소리와 대포 소리, 총소리가 터진다. 시끄러운 소음처럼 무대를 울릴 때 장내가 확 밝아지고 사무라이와 1인의 남인들이 무대위로 허둥지둥 등장한다. 만세 소리에 흠뻑 젖어 대포 소리와 총소리

에 우왕좌왕한다. 혼란한 상황에서 등장한 무대 반대쪽으로 도망치듯 퇴장하려다 무대 한쪽 귀퉁이에 병들어 거적을 뒤집어쓰고 누워있는 덕보를 발견한다. 이미 삶의 생기는 잃은 듯 그들을 향해 덕보는 알지 못할 목소리로 중얼거리며 떨리는 팔을 내 뻗는다. 경계의 눈빛으로 덕보를 바라보던 무리 중 한 명이 덕보에게 가까이 다가간다. 순간 덕보는 몸을 움직이려 하는 듯 기척을 내지만 그만 심한 기침과 구토를 하다 피를 토하고선 피로워하며 쓰러져 버린다. 그리고선 고개를 미동도 하지 않은 채 시체 마냥 널부러져 있다. 갑작스런 피에 놀란 사무라이와 남인들 중 앞선 한 명이 덕보의 몸을 발로 툭툭 찬다. 이에 다른 남인이 와서는 머리채를 들고 생사를 확인하나 덕보의 몸은 이미 차갑게 식어 있다. 이에 남인은 고개를 절레절레 흔들며 죽음을 알리고 덕보의 죽음을 목격한 사무라이는 더럽고 역겹다는 듯한 표정을 지으며 욕설을 뱉고선 등을 돌려 팔짱을 낀다. 나머지 4인의 남인들은 죽은 덕보를 거적에 둘둘 말아 발로 밀쳐 버린 후 침을 뱉고선 발로 구석에 밀쳐 버린다. 남인들 중 한 명이 거적 주변의 덕보의 짐을 가져가 사무라이에게 바친다. 사무라이는 덕보의 짐을 뒤지다 손수건을 발견하고선 이내 인상을 찌푸리고선 바닥에 꿇하니 던져 버린다. 쓸만한 물건이 없었는지 곧 덕보의 짐을 뺏겨 버린다. 다시 주변의 상황을 감지한 듯 황급히 사무라이와 남인들은 무대에서 퇴장한다.

#15 (귀향)

전쟁의 공포와 고통 때문에 정신이 나간 순이가 산발을 한 채 무대에 등장한다. 누군가 개나리 붓짐을 빼앗길까 두려워 품에 꼭 끌어안고선 웃다가 울다가 공포스러워 하다가 다양한 표정으로 피폐해진 모습을 연출한다. 순이가 무대를 돌아다니다가 덕보의 시체가 감긴 거적 쪽으로 이동한다. 무대 위에는 사무라이가 버린 덕보의 짐들이 흩어져 있다. 흩어져 있는 짐들 속에서 순이는 손수건을 줍게 되고 덕보의 시체가 감긴 거적 옆에 주저앉아 손수건을 가지고 논다. 순이의 표정은 멍하게 웃으며 깔깔거리다. 그 깔깔거리며 웃음이 점점 예코가 되어 퍼진다.

#16 (찔레꽃)

갑작스레 찔레꽃 노래의 전주가 나온다. 남녀 가수가 무대에 등장하며 찔레꽃을 부른다.
배경화면으로 위안부 할머니와 징용피해자들의 사진들이 스크린 위에 흐른다.
"가을밤 외로운 밤 벌레 우는 밤 초가집 뒷 산길 어두워질 때 엄마 품이 그리워 눈물- 나오면 마루 끝에 나와 앉아 별만 셉니다. 엄마일 가는 길에 하얀 찔레꽃 찔레꽃 하얀 잎은 맛도 좋지 배고픈 날 가만히 따먹었다오 엄마 엄마 부르며 따먹었다오 가을밤 고향밤 잠 안오는 밤 기러기 울음소리 높고 낮을 때
엄마 품이 그리워 눈물- 나오면 마루 끝에 나와 앉아 별만 셉니다."
조명 꺼지고 퇴장

17 (진혼곡)

젊은 춤꾼 임용희의 춤 '꽃은 피어 웃고 있고' 중...

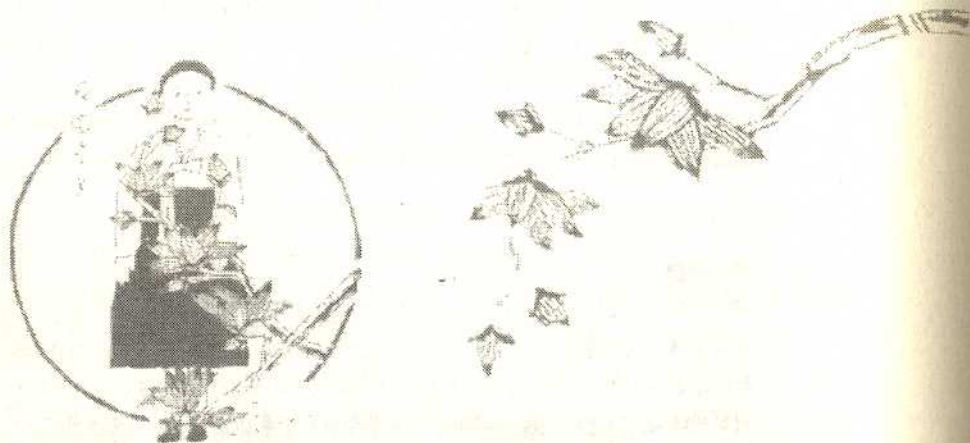
죽음과 삶의 경계를 향한 치열한 동작에서 보여주는 극상의 처절함. 결코 과거가 될 수 없는 역사를 향해 뛰어드는 어린 여성의 춤사위.

#18 (아리랑)

모든 출연자가 무대 위에 오른다. 출연자를 대표해서 젊은 가수가 대표발언을 한다. 아리랑을 부르며 대단원의 막을 내린다.

임응희의 춤 '꽃은 피어 웃고 있고'

부제 | 일본군 '위안부' 피해자를 위한 진혼의 꿈



언젠가부터 죽음을 생각한다.
가고 싶지 않은 나라
갈 수밖에 없는 나라

그럴 땐 엄마가 보고싶다
엄마의 얼굴 위로 겹쳐지는 또 다른 어머니
그들의 얼굴이 나에게로 온다

지나간 세월을 살아온 여인들...
가슴이 울컥한다

그네들의 가슴은 무슨 색깔까
힘이 들 때는.
울고 싶을 때는 어떻게 했는지
가슴속 한이 덩클덩클 쏟아질 때는 어떻게 했. 는. 지.

그 명울을 가지고
먼 길을 떠나야 할 때는
무엇이 그리웠는지....

연노랑 치마에
연두 저고리였는지.

어느 봄 날 흐드러지던
매화 향기였는지...

● 일본군위안부 할머니들의 증언을 접했을 때 가슴이 먹먹하여서 아무 말도 할 수가 없었습니다. 얼마 전 그분들의 수요 집회가 600회를 넘어섰다고 합니다.

●● 아직은 어리고 외람되지만 같은 여자로서 가슴 아픈 일이 아닐 수 없습니다. 그분들의 시대적 상황보다는 가슴으로 느꼈을 심리를 표현하고 싶었으며, 귀에 익숙해진 전자음의 현란함을 가능한 배제시키고 우리의 소리, 전통적 민요들로 음악을 구성하였습니다.

●●● 고저의 변화가 거의 없고 일정한 장단에 끝없이 이어지는 소리들로, 동작의 가닥을 잡을 수 없어서 무척이나 당황스러웠지만 삶의 고단함을 노래로 달랬기에 그 노래위에 우리민족의 한과 정서를 춤으로 실어보고자 합니다.

●●●● 이 작품은 태산 같은 한과 고통을 지닌 채 먼저 가신. 그 분들의 아픔을 조금이라도 나누어 가질 수 있을까 하는 마음으로 준비했습니다. 일본군위안부의 명울을 벗지 못하고 저 세상으로 먼저 가신 수많은 어머님들을 위해 두손모아 진혼제를 올립니다.

출연진 소개

임응희(안무·대본)
서울예술고등학교 무용과 졸업
한양대학교 무용과 졸업
동덕여자대학교 석사과정 졸업 (학위논문 '종묘일무 연구')
현) 한양대학교 무용과 강사
대진대학교 무용과 강사
동덕여자대학교 무용과 특강 강사
동덕여자대학교 박사과정



특별출연 이삼헌



박희경



하봉순



치영상



반달



김효주



나상은



이효진



김춘성



최성하

*도외주신 분들

무대감독(박인준), 조명감독(이성호-상명대학교 무대예술학과 교수), 영상(최상진, 박동화, 박희자), 무대분장(김정희)
총연출(김진한, 김진환 무용예술원 '용오름' 예술감독)

*프로그램에 삽입된 그림은 일본군 위안부 피해자 할머니들이 직접 그리신 작품입니다. 이 눈물의 흔적들을 저희들의 작은 가슴에 소중히 간직하고 잊지 않겠습니다.

바닥소리 WWW.BADAKSORI.COM



바닥소리는 사람의 삶과 역사의 한복판에서 소리하고 더불어 살아가겠다고 함께 모인 젊은 소리꾼들의 모임입니다. 진지하게 삶과 역사를 바라보는 착한 눈, 그런 눈이 열어주는 좋은 소리 그것이 바닥소리입니다. 역사의 소리, 역사의 한복판에서 역사를 다양한 모양으로 그려내는 소리, 인간의 소리, 사람 이야기, 사랑을 사랑하는 소리, 살리는 소리,

역사와 인간의 현상에서 희망과 사랑이라는 생명의 씨를 뿌리는 소리, 현신하는 소리, 이웃을 섬기며 함께 살아가는 소리. 바로 이런 소리가 바닥소리입니다.

■엇모리

이 시대의 소리꾼은 독수리의 눈과 같은 날카로움으로 세상을 정확히 바라보고 어머니의 눈과 같은 섬기는 말로 엮어내며 송장도 뜯어내는 흥겹고 좋은 소리로 풀어내야 이산천의 소리꾼 역사의 소리 인간의 소리 살리는 소리 현신하는 소리

■굿거리

다 함께 놀아보세 진지한 눈과 경쾌한 발걸음 바닥을 살아보세 하늘을 살아보세
다 함께 놀아보세 갈라진것을 하나되게 묶인것을 풀어주는 모두함께 손을 잡고 해방의 소리 불러보세

■자진모리

다 함께 놀아보세 여기 오신 벗님들과 좋은 소리 허여가며 마음을 나눠보세
기쁨을 늘여가고 슬픔을 줄여드네 우리모두 형제되어 진정으로 놀아보세 진정으로 사랑하세
바닥에서 놀아보세 우리는 이땅을 사람을 역사를 섬기고 사랑하는 바닥소리꾼

북춤공연 '새와 울림' 성덕여상

공연명 | 천둥소리

악기 | 대북 1개, 모듬북 2조, 사물북 8개

내용 | 대북, 모듬북, 사물북들이 서로 조화를 이루어 우리나라의 전통 풍물 장단 중 휘모리와 동살풀이 등 가장 빠른 장단들로만 모아서 연주하는 아주 신명나는 연주형태임.

판소리 이덕인

한울림 예술단 단원

중앙대국악대학 강사

미추 연극학교 교사

세종문화회관 삼청각 국악강사

가족놀이패 '아리'

사)민족음악인협의회 회원

KBS, MBC 등에 전통민속 가족출연

봉산탈춤, 시흥월미풍물, 전통민속놀이 등 다수 공연

아빠 | 조형욱(민속놀이 지도강사)

엄마 | 김은미(민속놀이 및 레크리에이션 강사)

딸 | 조은소리(전통연희단 꼭두쇠단원 판소리, 풍물)

아들 | 조강현(봉산탈춤 노장과장에서 원승이역)

조카딸 이선혜(전통연희단 꼭두쇠단원 판소리, 풍물, 작곡)

이름나라합창단

참가국가·지역 일본의 과거청산을 요구하는 국제연대협의회

1. 한 국 : 한국위원회
2. 북 한 : 조선위원회
3. 일 본 : 일본위원회
4. 대 만 : 대만부녀구원사회복지사업기금회
5. 필리핀 : 아시아여성인권협의회
6. 미 국 : 바른 역사를 위한 정의연대
7. 중 국 : 남경대학살기념관

북한 국제연대협의회 조선위원회

- 결성날짜 : 2004년 2월 24일
- 결성목적 : 일본의 과거청산을 요구하는 국제연대협의회를 더욱 강화하고 일본정부에 철저한 사죄와 보상을 요구하는 국내외적인 활동을 보다 힘있게 추동함으로써 과거 일제에 의하여 무참히 짓밟힌 피해자들의 명예와 존엄을 회복하며 피해들과 유가족들의 피맺힌 원한을 풀어주는 데 기여하기 위하는데 있다.
- 가입단체 : 일본의 과거청산을 요구하는 국제연대협의회 조선위원회에는 다음과 같은 단체들이 망라되어 있다.
 - 조선 일본군 《위안부》 및 강제연행피해자보상대책위원회
 - 조선인강제연행피해자 유가족협회
 - 반핵평화를 위한 조선원자탄피해자협회
 - 일제의 조선강점피해조사위원회
 - 아시아여성들과 연대하는 조선여성협회

※ 조선위원회 실무사업은 조선 일본군 《위안부》 및 강제연행피해자보상대책위원회가 주관하여 보고 있다.

1. 조선 일본군 《위안부》 및 강제연행피해자보상대책위원회

- 결성날짜 : 1992년 8월 1일
- 결성목적 : 일본의 과거 중대한 인권유린범죄의 진상을 전면적으로 조사공개하며 일본정부가 이에 대한 국가정책임을 인정하고 올바른 사죄와 보상을 하도록 요구하는 운동을 국제사회계와의 긴밀한 연계밑에 확대발전시켜 나가기 위하는 데 있다.
- 단체구성 : 주요성원으로 위원장, 부위원장, 서기장 등을 두고 있으며 이외 역사학자들과 법률가, 기자, 인권문제전문가, 교수들이 상무위원, 위원으로 망라되어 있다. 위원회에 조직계획부, 피해자생활부, 자료조사부, 출판보도부 등의 부서들이

있다.

- 활동내용
 - 일본이 우리나라를 군사적으로 강점한 후 중일전쟁과 태평양전쟁을 전후하여 대대적으로 감행한 강제연행범죄와 일본군 《위안부》 범죄 등 인권유린범죄에 대한 진상을 규명하고
 - 우리나라의 피해실태와 피해생존자 및 목격자들을 발굴하며
 - 일본정부에 대한 보상요구의 법률적근거를 연구하며
 - 세계 여러 나라의 진보적력량들과의 연대를 강화하여 이 문제에 대한 국제적여론을 환기시켜 강제연행과 강제노동, 일본군 《위안부》 범죄를 비롯하여 과거 일제가 조선인민에게 가맹한 모든 반인륜적범죄에 대하여 현 일본 정부가 성근하게 인정하고 국가적인 사죄와 보상을 진행할 것을 요구하는 활동을 벌인다.

2. 조선인강제연행피해자 유가족협회

- 결성날짜 : 2003년 11월 6일
- 결성목적 : 일본의 과거 청산을 요구하여 활동하고 있는 단체 및 개별인사들과의 긴밀한 연계와 연대밑에 일제의 조선인이 투쟁을 힘있게 벌려 나가는데 있다.
- 단체구성
 - 주요성원으로 회장, 부회장, 서기장, 위원을 두고 있으며 과거피해에 대한 공개증언에 나선 일본군 《위안부》 피해자들을 포함하여 각종 명목으로 일제에 의해 강제연행되었던 피해자들과 그 유가족들로 구성되었다.
- 활동내용
 - 일제가 감행한 강제연행범죄의 체험자들과 억울하게 죽은 희생자들을 비롯한 유가족들을 찾아내고 협회에 망라시키기 위한 활동
 - 국내외에서 열리는 다양한 형식의 토론회 증언모임 등에 참가하여 일제의 강제연행범죄를 폭로하고 과거청산을 요구하는 여론을 높이기 위한 활동
 - 정부와 해당부문에 피해자료를 제공하기 위한 활동
 - 국내 해당기관과의 연계밑에 유엔인권위원회를 비롯한 국제기구들의 피해실태를 통보하거나 소식조사를 의뢰하여 국제적인 협력을 요청하는 활동
 - 기타 국내 해당기관의 방조밑에 일제에 의한 강제연행피해자들에 대한 일본정부의 사죄와 보상을 실현하는데 필요한 활동을 전개한다.

3. 일제의 조선강점피해조사위원회

- 결성날짜 : 1992년 5월 24일
- 결성목적 : 일제가 조선강점기간에 조선인민에게 끼친 막대한 인적 및 물적피해, 정신문화피해들을 전면적으로 조사해야할 필요성으로부터 조직되었다.
- 단체구성
 - 주요성원으로 위원장 부위원장 위원을 두고 있으면서, 위원회를 비롯한 정부관계자들과 각급행정기관 일꾼들, 권위있는 역사학자, 국제법학자, 인권문제전문가, 변호사들이 망라되어 있다.
- 활동내용
 - 일제가 조선인민에게 끼친 막대한 물적피해, 정신문화적피해들을 전면적으로 조사하는 활동
 - 다른 나라의 정부관계자들과 민간단체들, 이름있는 학자와 법률가들, 국제기구들과의 광범위한 의견교환을 진행하는 활동

· 조선에 대한 일제의 식민지통치의 비법성을 전면적으로 해명하는데 기초하여 배상 및 보상문제를 철저히 해결하기 위한 권고안과 의견서들을 정부와 최고인민회의에 제출하는 활동을 벌인다.

4. 아시아여성들과 연대하는 조선여성협회

- 결성날짜 : 1998년 1월 19일
- 결성목적 : 전쟁을 반대하고 평화와 진보를 바라는 여성들의 지향과 념원에 맞게 아시아 여성들과의 친선과 연대성을 강화발전시켜 나가기 위한 데 있다.
- 단체구성 : 주요성원으로 회장, 부회장, 서기장, 상무위원을 두고 있으며 과학 교육, 문화 등 가계의 여성들로 구성되었다.
- 활동내용
 - 조선반도의 평화와 통일, 아시아의 평화와 안전을 실현하며 여성들의 권리를 옹호하기 위한 활동
 - 아시아여성들과의 친선 및 연대성을 강화발전시키기 위한 교류활동
 - 아시아여성들과 연대하여 일본의 과거청산을 요구하여 국제적인 여론을 높이기 위한 활동을 벌인다.

5. 반핵평화를 위한 조선원자탄피해자협회

- 결성날짜 : 1995년 2월 2일
- 결성목적
 - 원자탄에 의한 피해의 책임을 추궁하고 원자탄피해자들에 대한 충분한 보상을 실현하며 동북아시아지역을 비핵평화지대로 만들며 온갖 핵시험을 금지하고 지구상에서 핵무기를 완전히 철폐하며 자유롭고 평화로운 새세계를 건설하는 것을 목적으로 하고 있다.

일본 국제연대협의회 일본위원회

2002년 5월 평양심포지엄에서 합의한 대로, 2002년 9월 준비위원회를 발족, 2003년 9월 국제연대협의회를 상해에서 발족하고 같은 해 8월에 일본협력위원회로 개편. 상해 제1회 협의회, 제2회 서울협의회를 지원. 일본 국내의 연락을 위해 대표 츠치야 코젠(土屋公), 연락담당 코디네이터에 아리미츠 켄(有光健)
주소 102-0074東京都千代田區九段南2-2-7-601
Tel. 81-3-3237-0217
Fax.81-3-3237-0287
E-mail:cfrtyo@aol.com
기부금 郵便振替00130-6-172084 「戦後補償ネットワーク」 通信欄に「国際協議會」と明記

대만 대만부녀구원사회복지사업기금회

(일본군성노예)(대만할머니) 일본 배상청구운동 현황 및 발전

[일본군성노예] 대일본 배상청구운동은 대만에서 1992년부터 시작해서 올해까지 12년이 되었다. 조기의 개별사건 調査, 社會唱導 단계를 넘어 발전단계에 들었다. 지금 일본에 대한 소송, 할머니 心身 돌보기, [일본군성노예] 역사자료 수집 정리, 학교 선전교육 및 국제 연대운동을 촉진하고 있다. 촉진현황은 아래와 같다:

一. 일본에 대한 소송 進度

2004년 2월 9일 일본 도쿄 고등법원에서 「臺灣慰安婦要求日本政府國家賠償」 소송안이 패소된 선고를 듣고 우리는 가슴 몹시 아팠다. 이 패소의 결과가 일본정부의 태도가 여전히 잔혹하고 냉담한 것을 보여 주었다. 1999년 시작한 소송은 지금까지 5년째 되었다. 소송하는 대만 할머니들이 66명이었는데 지금에 이르러 다만 33명만 살아 있는데 결국 이런 인간성 상실하고 인권 무시하는 결과를 얻었다.

그러나 우리는 결코 포기하지 않고 「끝까지 싸울 것이다」. 「일본 정부에게서 정의를 되돌려 받으려고 한 것은」 대만 할머니들이 지금까지 살아 있는 이유이다. 司法 방법으로 해결하든 立法 방법으로 해결하든 이 문제를 꼭 해결해야 한다. 우리는 2월 18일 도쿄 최고법원에 상소하였고, 또한 더 많은 일본 국회의 유식한 사람을 유세하여 약 60년 지나도 해결되지 못하는 전후 보상 문제를 해결할 것이다.

2월 9일 오전 11시 10분 사람들이 아직 다 앉지 못했는데, 도쿄 고등법원 법관이 벌써 선고하였다. “본 청구 소송은 기각되었다. 판결 이유와 사실은 판결 서면에 설명할 것이고 모든 소송 비용은 원고가 부담한다.” 3초도 안 되는 사이에 일본정부의 국가배상을 요구하는 대만 위안부 소송안이 패소되었다.

盧滿妹가 화를 내며 견책했다: “나는 17살 때 사기 당하고 잡혀갔는데... 왜 이런 판결이 나오니까?, 일본 정부가 무죄라면 설마 우리 대만이 유죄인 것입니까? 이유도 없이 당신들의 모욕을 받아야 합니까?”

원주민 타이루거의족 林沈中 할머니도 “나는 14, 15살 때 잡혀갔다. 젊었을 때 많이 다쳤고 지금 온몸은 모두 잔병이고 건강은 이미 망가뜨렸다. 나는 결코 이 고통을 잊어버릴 수 없다.”고 말했다.

鄭陳桃 할머니가 울면서 “재판이 실패되었더라도 내 마음은 절대 지지 않겠다. 나는 학생이었을 때 잡혀서 일본군성노예가 되었다. 이것은 나의 평생을 해쳐서 지금도 외롭게 혼자 살고 있다. 일본 법관은 그런 배상 법률이 없다고 말했지만 그 것은 전쟁 후의 법률이고 우리가 전쟁 전에 및 전쟁 중에 입었던 피해는 자신의 운명을 탓하라고 하는 것인가?” 라고 책문했다.

일본 義務 변호사도 이 결과에 대해 가슴 아팠다. 團長 시미즈가 “일반적으로 사형 소송 안 판결을 내릴 경우에만 법관 혼자 선고한 후 바로 떠나간다. 司法은 弱者를 구해야 되는데, 그러나 이번 심판은 이 정신을 어길 뿐만 아니라 피해자에게 2차 피해를 초래하였다. 나는 이 심판이 대단히 수준이 떨어진 심판이라고 생각한다.”고 말했다. 藍谷邦雄 변호사도 “이번 판결 결과는 조금도 새로운 것이 없다. 고등법원 법관이 다시 조사를 하고, 사건 사실에 대해 더욱 잘 알아보아야 한다. 단지 1審 판결 결과를 그대로 인용하면 안 된다.”

고 지적했다.

아쓰코 변호사가 말하기를: “원고 할머니들의 눈물을 볼 때마다 나의 마음이 몹시 괴로웠다. 이것은 이미 공인된 사실이고 법관이 인간성을 추구하는 판결을 해야 되는데... 결국 이런 판결 결과 나왔다니...”

婦援會에 의하면, 판결은 도쿄 고등법원이 피해자의 과거 피해 사실에 대해 조금도 동정하지 않는 것을 의미했다. 당사자가 법정에서 진술을 하는 것을 거부한 것은 아주 잔혹한 행위이다. 당사자의 진심을 들어주지 않고 무정하게 판결을 내렸던 것이 피해자에게 더욱 큰 상처를 초래하였다.

婦援會 理事長 藤英智가 법원이 法理에 따라 본 소송을 기각하였지만 법관은 司法制度의 2가지 중요한 사명을 어겼다고 지적했다. 법관은 아주 보수적인 태도로 판결을 내렸고 司法이 正義를 실현시키는 사명을 소홀히 하였다. 짧은 5페이지 판결문에, 피해자의 과거 피해사실을 승인하고 싶지 않았고 司法이 真相을 밝히는 사명을 소홀히 하였다. 그러나 우리는 포기하지 않고 계속 상소할 것이다. 아울러 국회 立法 및 국제지원도 추진할 것이다.

盧滿妹는 오늘의 판결 결과에 대해 무력감을 느끼고 있다. 그는 “나 올해 이미 79세이다. 오늘은 먼 곳에서 찾아왔는데... 여러 해를 거친 소송은 아직까지 변화가 없어 나 너무 무기력하고 분노하다. 오늘 심판에서 먼 곳에서 온 나에게 단 한 마디 할 기회도 주지 않고... 이렇게 무시를 당하다니 너무 슬펐다. 우리는 점점 늙어지고, 병 들고, 죽어가고 있다, 하지만 나는 죽을 때까지 계속 소송을 할 것이다. 내가 죽더라도 내 아들, 내 손자가 계속 소송을 할 것이다.”고 고소했다.

二. 학교 캠퍼스 선전 기획: ‘할머니의 비밀’ 학교 캠퍼스 선전 일련 - ‘할머니! GO!’ 前進 대학 캠퍼스 선전 기획

「일본군성노예」의 과제 범위는 아주 넓다, 전쟁 중의 여성 인권문제, 여성성노예문제, 일본 정부의 범죄문제, 피해자의 심리회복, 心身 돌보기 등 문제를 포함한다. 이 역사적 사실에 대해 언급하는 사람이 아주 드물고, 오늘날의 일본정부도 사과를 하고 싶지 않고 책임을 지고 싶지 않다. 「일본군성노예」 할머니들이 시간이 흐르면서 점점 줄어든다. 현재 자신의 비참한 과거를 공개적으로 하소연하는 할머니는 33명 밖에 안 남았다. 그들은 역사의 증인이지만 역사가 그들에게 진상과 정의를 돌려주지 않았다. 그들은 전쟁 중에 입었던 心身 피해는 인류 역사에 큰 교훈을 남겨 주었지만 이런 교훈을 대만의 후세에게 알려주는 기회가 아직 없다.

제작년부터, 부원회가 처음으로 대만 중고등학교 캠퍼스에서 선전활동을 펴고 열렬한 반향을 얻었다. 올해는 제3번째이다. 지금까지 이미 3000명의 중고등학생이 할머니의 역사에 대해 알게 되었다; 대만 「일본군성노예」는 한국과 일본에 여러 번 가서 대학생들과 얘기하는 시간을 가졌다. 얘기를 통해 젊은 학생들이 전쟁의 피해와 진상을 알게 되었다. 대만 할머니들이 대만 대학생들과의 만남의 시간을 가지기를 바라고 있다. 만남을 통해 대만 대학생들이 역사의 진상을 알 수 있기를 바란다.

우리는 차세대가 전쟁의 살상력을 이해하여, 일본 정부의 여성성노예의 범죄행위를 이해하며, 인권에 대한 존중을 이해하기를 바란다. 이런 역사 진상은 기록하고 전파되어야 한다. 그래서 올해 대만 「일본군성노예」는 처음으로 대학 캠퍼스에 들어가고, 「살아 있는 역사」 신분으로 현대 젊은이가 직접 자료를 얻을 수 있도록 했다. 지금까지 3군데 대학에 가서 활동을 하였다.

大桃 할머니는 캠퍼스에서 전쟁터에서 요행히 생존하고 집으로 돌아가는 사연을 얘기했다. 난양 전쟁터에서 요행히 살고 대만으로 돌아가 어머니를 만났다, 딸이 이미 죽은 줄

알았던 어머니는 살아서 돌아오는 딸을 믿어지지 않고 다가와서 얼굴과 손을 만지고 망령이 아닌 것을 확인한 다음에야 딸을 집에 들어오게 하였다. 大桃 할머니가 이 역사 장면을 얘기할 때 당시 할머니가 집에서 떠날 때의 나이와 비슷한 대학생들이 눈물 흘렸고 할머니의 가슴 아픈 고통을 이해하였다. 이런 활동을 통해 일본 배상을 청구하는 운동에 더욱 많은 지지를 얻었다.

三. 역사 구술과 영상 기록

1992년, 「일본군성노예」 劉黃阿桃가 처음으로 사람들에게 2차대전동안에 「일본군성노예」가 되었던 비참한 과거를 공개했다. 이어 66명 생존한 대만 「일본군성노예」가 나서서 일본 정부를 고소하였다. 1998년 「할머니의 비밀」이라는 다큐멘터리를 촬영하고 10명의 할머니가 50년동안 마음속에 숨었던 비밀을 드러냈다. 1999년 대만 「일본군성노예」는 드디어 용기를 내어 일본 도쿄에 나와 「일본 정부 손해배상 요구」 소송안을 제기하였다. 2004년에 들어 일본 정부는 아직도 전쟁 피해 보상 문제를 해결하고 싶지 않기 때문에 할머니들이 일본에 대한 배상요구 운동은 정지할 수 없다. 그러나 시간이 흐르면서 지금까지 33명 할머니만 남았다. 우리는 ‘살아있는 역사’의 영상을 미처 보존하지도 못했다.

부원회가 매년 정기적으로 할머니들을 위해서 심리 치료 작업을 실시하고 있다. 이것은 전국 유일한 ‘전쟁 및 성폭행 피해 여성노인의 심리 치료 단체’이고 이미 7년 동안 계속 운영되었다. 할머니들이 이 밀폐된 단체내에 단체 成員들의 도움 하에 자기 자신의 자유 의지에 의해 자기를 표현하고 미술치료, 무용치료, 음악치료 중에 감동적인 화면과 먹진 작품을 남겼다. 그러나 많은 할머니들이 공개된 것을 원하지 않기 때문에 더욱 완전하고 전문성 있는 영상자료를 만들지 못하였다. 지난 과거는 할머니들에게 잊을 수 없는 고통을 남기고 그들의 인생을 확 바꿨다. 지금 살아 있는 일본군 폭행을 목격한 할머니들의 생활 영상을 만들기 위해 우리는 가속하여 ‘할머니 생명 영상 전기록’을 만들고 후세에게 정확하고 진귀한 자료를 남기고 다시 여성인권을 유린하는 이런 폭행이 일어나지 않도록 해야 한다.

촬영지는 할머니들의 생활 및 활동 지역을 위주로 하고 촬영가가 촬영할 할머니의 믿음을 얻은 부원회 직원과 같이 촬영한다. 부원회가 매년 정기적으로 할머니들에게 심리 치료할 때도 치료과정을 영상으로 기록해 놓는다. 「일본군성노예」 할머니들의 유일한 소원은 보통 사람의 생활을 하는 것이다. 그러나 비참한 과거가 그들이 가져야 되었던 모든 것을 다 빼앗았고 남은 것은 슬프고 분노한 추억밖에 없다. 이런 생활영상을 통해 전쟁 생존자들의 생활 용기와 모습들을 보여준다.

후손이 이 역사 교훈을 명심할 수 있도록 부원회가 대만에서 살고 있는 「일본군성노예」들에 관한 영상물을 출판하려고 한다. 이를 통해서 그들의 특별한 생존경험과 고통을 사람들에게 알려준다.

「일본군성노예」대일 배상청구 운동은 아직 일본정부의 사죄와 배상을 얻지 못했다. 정의와 할머니들의 명예와 존엄을 회복하기 위해 일본군성노예의 사실을 적극적으로 선전해야 한다. 향후 국내외에서 寫眞展을 개최할 예정이다. 학교 캠퍼스 및 시민들에게 지속적으로 선전할 것이다.

四. 박물관 설립 계획

부원회가 올해(2004)부터 「일본군성노예」기념관의 설립을 추진하고 있다. 「일본군성노예」기념관의 설립을 통해서 대만 사람들이 여성 인권에 대해 더욱 많은 관심을 가질 수 있도록 한다. 아울러 「일본군성노예」기념관은 전세계 여성단체들의 연대를 통해서 「인

필리핀의 일본군성노예 피해자들은 계속해서 정의를 요구한다

일본군'위안부'라 불리는 이들이 2차 세계 대전 시 일본군에 의한 성적 노예로서의 이야기들을 대중에게 드러낸 지 12년이 지난 지금, 피해자들은 여전히 그들에게 주어져야만 할 정의를 기다리고 있다. 시간은 그들의 편이 아니다. 그들 중 수많은 이들이 세상을 떠났으며 다수가 병들고 가난한 상황에 처해 있다. 그들의 나이가 70대 혹은 80대가 된 지금, 로라스(Lolas)는 피해자들의 옹호자로서, 그리고 지지자로서 일본 정부가 피해자들에게 빚진 보상의 책임을 촉구하는 외로운 투쟁을 지속하고 있다.

일본군'위안부'는 세계 최악의 비밀 중 하나로 남겨져 있었다. 그러나 1991 12월의 추운 겨울날, 한국의 성노예 피해자인 김학순은 서울에 있는 일본대사관 앞에서 공식적으로 시위를 하며 그녀가 겪은 고통을 세계에 전했다. 한국 희생자의 공개발언에 힘입어 1992년 로사 헨슨(Rosa Henson)을 필두로 한 필리핀의 전성노예여성 조직은 피해자들이 일본 군대의 계약화 된 성적 대상이었음을 밝히기 위해 한걸음 앞으로 나아갔으며, 비정상적인 성행위를 한 일본 군인들은 필리핀인들에 대한 조직적인 잔학행위에 관련되어 있었다. 앞서 언급한 전 성노예여성 조직이 바로 마닐라에 본부를 두고 있는 아시아여성인권협의회(AWHRC)이다. 아시아여성인권협의회는, 대중들에게 성노예 피해자들을 환기시키는 동시에 일본 정부가 도덕적이고 법적인 책임을 수행하라고 요구하던 여성 투쟁 조직인 가브리엘과 함께 자리하고 있다.

1994년 피해자들은 법적인 보상과 공식적인 사과를 위한 압력을 행사하는 피해자들의 첫 번째 단체인 리라 필리피나(Lila Pilipina)를 조직했다. 1997년에는 마파니케를 근거지로 한 두 번째 피해자 집단인 말라야 로라스(Malaya Lolas)가 조직된다. 세 번째로 결성된 로라스 캠페니아라(Lolas Kampanyera)는 2000년에 결성되어 다양한 포럼과 재판지에서 투쟁을 전개하고 있다.

'위안부' 사례가 밖으로 공개된 이래로 일본 정부는 회피, 지연, 관료적 무관심의 계책들을 마련했다. 그것은 '위안부'에 대한 '아시아 여성기금'과 같은 완화책을 제시하면서 보상 문제에 대해 지속적으로 방어막을 치는 것이다. 필리핀에 있는 다수의 피해자들은 일본 정부 스스로가 그들의 성적인 학대와 노예들에 대한 경제적 보상을 지불해야 한다고 주장하며 사적인 출처로부터 거두어진 기금을 통한 보상을 현명하게 거절했다.

여러 지역에 분산된 필리핀의 피해자들은 일본정부로부터 경제적인 보상과 공적인 사과를 받으려는 그들의 투쟁이 사실상 자포자기되는 행정의 연속 속에서 무관심과 무시로 고통받고 있다. 대만과 남한의 '위안부' 사례에 있어서 그들의 정부는 이 문제에 결말을 내기 위해서 피해자들 뒤에 굳건히 서 있다. 타이페이와 서울의 의회는 자국의 '위안부' 여성들에 대해 일본 정부에게 도덕적 경제적 피해에 관한 보상을 요구하는 법안을 공식적으로 통과시켰다. 그러나 필리핀 의회는 로라스 캠페니아라와 다른 여성단체들에 의한 수십 년 간의 로비에 불구하고 유사한 정책을 마련하는 것을 마다하고 있다.

권, 「생명 존엄」, 「성별 정의」, 「세계평화」 등 인류 사회 발전에 있어서의 과제들의 논의와 실천을 강화하고 歐美 여성인권의 발전과 발걸음을 같이 할 수 있도록 한다.

오늘은 우리가 이 과제 때문에 국제교류를 하고 있다. 향후 「기념관」은 적극적 역할을 하고 인류사회 문명 발전의 미래를 열 것이다.

대만에서 오래전부터 소녀가 부모에 의해 팔아서 매춘부가 된 사건들이 있었다. 이들 불행한 소녀를 구조하기 위하여 변호사, 학자 및 기타 사람들이 1987년에 '臺灣婦女救援協會'를 설립하였다. 대만 婦女賣買(trafficking women)를 정지하고 사회가 강요 매춘부에 대해 많은 관심을 가질 수 있도록 한다.

1992년 이후부터 「일본군성노예」, 강제노동, 세균전 등 2차대전 때의 피해를 아직까지 해결하지 못하는 전쟁책임문제가 일어났다. 한국, 필리핀, 인도네시아, 태국, 동 티모르, 대륙 등 지역에서 「일본군성노예」 피해자가 나서서 고소하고 있다. 아시아 피해국들이 연대를 통해서 국제 여론 압력을 만들어 일본에서 소송을 제기하여 일본정부의 손해배상을 요구하고 있다. 부원회도 대만 여성의 권익을 위해 적극적으로 참석해 왔다.

아시아 피해국들이 매년 여러 번 국제연대회의를 개최한다. 한편으로는 국제 압력을 형성하여 일본 정부의 전쟁배상을 요구하고, 다른 한편으로는 역사적 사실을 바르게 하여 각국의 정확한 역사 교육 素材를 제공한다. 현재 각국이 모두 이 문제의 중요성을 認識하여 그 중에 숨겨지는 인권, 평화와 약세의 보살핌 등 과제에 관심을 가졌다. 부원회는 몇 년 동안에 관련 史料를 모아, 보존하여 교육 선전에 중점을 두고 있다. 「일본군성노예」 생존자가 점점 줄어들고 있다. 그래서 기념관의 또 하나의 설립 요지는 여성사를 계승하는 데 있다. 이 기념관은 대만 「일본군성노예」 및 대만 여성 인권의 발전을 위해서 역사 교육의 기능을 구비하는 박물관이며, 국민 및 국내외 학술, 비학술단체가 「일본군성노예」 문제 및 대만 여성이 대만 역사에의 사회적 지위와 발전현황을 알아볼 수 있는 기념관이다.

「일본군성노예」 기념관의 설립은 대만 여성 인권의 시야를 넓히고 여성 관련 과제를 확대시켰다. 오늘날 「일본군성노예」 문제는 대만만의 문제가 아니라 아시아 피해국 여성들이 직면한 국제문제이다. 그래서 아시아 여성단체 및 여성 인권의식의 연대를 강화해야 한다. 歐美 나라들의 발전된 여성인권 관념을 가질 수 있었으면 한다.

五. 국제연대 행동의 향후 발전 및 건의

(一) 일본 국회 立法 세력을 강화한다: 각국에서 일본정부의 배상을 청구하는 소송 이외에 일본 국회의 立法은 또한 아주 중요한 해결방법이니 촉진해야 한다. 각국 민간단체가 연대를 통하여 국제연대세력을 형성하여 각국 정부에게도 압력을 주고 국제 정치세력에 굴복하지 않아야 한다. 일본 국회에서의 立法 遊說를 강화하여 배상에 관한 특별입법이 통과시켜서 피해자들의 정의, 존엄 및 명예를 회복한다.

(二) 아시아지역 국제연대회의가 정기적으로 개최되어야 한다: 아시아 피해국 민간단체들이 매년 정기적으로 활동하여 다음 해 활동 주제를 정해야 한다. 활동 동안에 대일배상청구운동의 주요 주제를 명시해야 한다. 예컨대 史料收集, 社會教育 및 國會遊說 등을 명시해서 각국에서 이 주제에 대해 다 같이 노력하면 더욱 큰 국제세력을 형성할 수 있다.

(三) 대회결의 및 관련 정보를 유엔과 구미지역 인권단체에게 제공하여 그들의 이해와 지지를 요청한다: 구미지역 인권단체 및 유엔 인권위원회가 아시아 지역 피해국들의 운동 상황을 파악할 수 있도록 도와주고 지지세력 및 지원을 확대한다.

(四) 구미지역 인권단체와 밀접한 관계를 맺는다: 국제인권단체의 협력을 확대하여 인권 관심 주제의 범위를 넓히고 전세계 반전, 여성인권 등 과제에 대해 실질적인 성원을 하고 전후 배상운동의 질을 향상시킨다.

미 국 바른역사를 위한 정의연대(Historical Justice Now)

미국 로스앤젤레스에 기반을 둔 일제강점기 강제동원피해자들의 역사적 정의와 인권회복을 위해 활동하는 민간단체. 전신인 '정의회복위원회(Committee for Historical Justice for World War II War Crimes)'는 미국 법정에서 징용피해자들과 '위안부'들을 위한 소송을 추진하고 지원하는데 중추적인 역할을 했다.

미국에서 Alliance to Preserve the History of World War II-LA. 와 같은 인권단체와 공동으로 징용피해자들의 문제와 세균전의 참상을 알리는 전시회 개최 등을 통해 미국사회에 일제인권유린의 진상을 알리는 일을 해오고 있다. 2003년 11월에는 UCLA Korean Studies Program 등과 공동주최로 '위안부' 피해자들의 그림과 재미징용피해자들의 사진전인 "Forgotten Terror" 전시회를 UCLA 에서 개최한 바있다. 한국내의 피해자단체 및 일본의 유사단체들과 긴밀한 협력체제를 갖추고 미국에서의 소송지원과 국제연대 활동에 중점을 두고 있다.

공동대표 정연진 (Jean Chung), 유형규 (Henry Yoo); www.historicaljustice.org
3700 Wilshire Blvd., Suite 695
Los Angeles, CA 90010, U.S.A.
TEL (213) 387-1166
FAX (213) 387-1163
연락처 jean@historicaljustice.org

중 국 남경대학살기념관

侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館

侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館은 중국 南京 水西門 大街 418번에 위치하고 있다. 여기는 중국 침략 일본군 남경대학살 江東門 단체 학살 및 조난을 당한 동포들의 유골을 합장하였던 것이다.

남경대학살은 일본 군국주의가 대중국 침략전쟁에서 저지른 잔인하고 세계를 놀라게 하는 역사사건이며, 2차대전 동안에 일본 군국주의가 아시아 태평양 지역의 국가와 국민에게 저지른 일련의 침략과 학살 폭행 중에 가장 집중되고 두드러진 것이다. 1937년 12월 13일 일본군이 南京을 점유한 후부터, 짧은 6주 동안에 불로 태우기, 죽이기, 강간하기, 강탈하기 등 식으로 시민 및 무기를 내려놓은 중국 군인 무려 30만명 이상을 학살하였다. 수없는 여성이 모욕을 당하였고, 수없는 주택, 상점, 기관, 창고는 강탈되었고 불태워 파괴되었다. 남경시내의 건축물과 재산의 3분의 1이 잿더미로 변하였다.

조난자를 추모하기 위해서, 1985년 8월 남경 시민은 세계반파쇼전쟁과 중국 인민 중일전

쟁의 승리 40주년 때에 기념관을 건설하였고 鄧小平은 “侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館”이라는 館名을 써 주었다. 1995년 2기 확장 공사를 하였다. 이 기념관의 면적은 22000 평방미터이며, 건평은 5000평방미터이다. 건축물은 회백색 화강암으로 만들어서 기세가 웅대하고 장중하여 엄숙하다. 역사자료, 유물, 건축, 조각, 시청각 등의 종합 수법으로 남경대학살을 전적으로 보여주는 박물관이다. 기념관을 건설하는 동시에 남경 시내의 일본군 단체학살 유적지에서 기념비 총 17체를 세웠다.

기념관은 廣場陳列, 遺骨陳列, 史料陳列 3부분으로 나눈다. 廣場陳列은 추모광장, 묘지광장 및 祭奠광장으로 구성하고 합동 조각, 부조, 표지 비석, 기념비, 시 비석, 속죄의 비석, 고목, 산산 조각, 조난자 명단 벽, 푸른 나무 잔디밭 등의 여러 가지 경관을 세운다. 생과 死, 悲과 憤을 주제로 삼고 기념성 묘지의 특징을 띠고 있다. 외형이 관곽처럼 생긴 유골진열실 내에 1985년 기념관을 지을 때에 이 기념관의 소재지인 江東門 “萬人坑”에서 발굴된 일부 조난자의 유골이 진열되어 있고, 다른 한 군데는 1998년 새로 발굴된 “萬人坑” 조난자의 유골 현장이다. 발굴 현장 모습 그대로 전시하는 것은 중국침략 일본군의 남경대학살의 확실한 증거가 되기 위해서였다. 墓穴 모양의 반 지하 史料陳列 홀 안에 1000여 건 진귀한 역사 사진, 문물, 도표와 증거의 자료가 전시되어 있고 중 · 영 · 일 문자 설명을 달고 있다. 등, 모래 모형, 진흙조소, 유화, 복원된 경관, 멀티미디어 터치스크린, 영화, 텔레비전 등의 전시 수단을 택하여 남경대학살의 비참한 역사를 재현하여, 지옥과 같은 참상을 보여 주고 일본 군국주의자 피비린내 나는 폭행을 폭로한다.

이전의 교훈을 잊지 않고 훗날의 귀감으로 삼는다. 이 기념관은 대내적으로 애국주의교육 대외적으로 평화와 역사문화교류의 중요한 陣地가 되었다. 共靑團中央委員會, 국가교육위원회 등 6부위원회에 의해 “全國靑少年教育基地”, “全國初等學校愛國主義教育基地”, “全國愛國主義教育示範基地”로 명명되고, 동시에 첫 번째 “全國精神文明創立工作先進部門”, “전국노동조합계열 외사업무 선진 부문” 등의 여러 상을 획득하였다. 개관 19년 이래 중국과 외국 관람객 총 960만명이 찾아왔고 그 중에 일본 관람객은 40만명이었다.

덴마크왕국 오르후스 시, 미국 샌프란시스코와 일본 나고야, 히로시마 등 30여 개 국제도시 및 베이징, 상하이, 무한, 푸저우, 창춘, 항저우, 허페이 등 국내 23개 도시에서 이동식 전시회를 열었고 관람객은 100여 만명에 달했다.

1996년 기념관에서 중국침략 일본군 남경대학살 역사연구회를 설립하였고 2001년 남경 일본교과서문제연구회를 설립하였다. 미국, 독일, 일본, 한국, 홍콩, 타이완 등의 국가와 지역을 포함한 국내외의 많은 전문학자들이 모여서 연구할 수 있는 기회를 마련하였다. 1997년 8월 제1회 “남경대학살사 국제학술회의”를 주최한 이후 매년 8월 남경대학살사 학술성과 교류회를 개최하였다. 2002년 3월 중, 일, 한 삼국의 학자들이 참가한 제1회 “역사인식과 동아시아평화 세미나”를 개최하였다. 2003년 9월 “남경국제평화연구소”를 설립하여 평화학을 연구하고 전국 대학에서 제일 먼저 국제평화학 강좌를 개설하였다. 아울러 남경대학살과 관련된 史料叢書 및 전자출판물 40여 권을 편집 출판하였다.

侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆

侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆，座落在中国南京市水西门大街418号，这里曾是侵华日军南京大屠杀江东门集体屠杀及遇难同胞遗骨丛葬地之一。

南京大屠杀是日本军国主义在侵华战争中制造的一起惨绝人寰、震惊中外的历史事件，是二次大战期间，日军军国主义对亚洲太平洋地区的国家和人民犯下的一系列侵略和屠杀暴行中最集中、最突出的一例。自1937年12月13日日军侵占南京后，在短短六个星期中，烧、杀、淫、掠，屠杀无辜市民和放下武器的中国士兵达30万人以上，无数妇女遭凌辱，无数住宅、商店、机关、仓库被抢劫、焚烧和破坏，全市约三分之一的建筑物和财产化为灰烬。

为悼念遇难者，1985年8月，南京人民于纪念世界反法西斯战争和中国人民抗日战争胜利40周年之际修建了纪念馆，邓小平同志题写馆名：“侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆”；1995年又进行二期工程扩建。该馆占地面积22000平方米，建筑面积5000平方米，建筑物采用灰白色花岗岩垒砌而成，气势恢宏，庄严肃穆，是一处以史料、文物、建筑、雕塑、影视等综合手法，全面展示南京大屠杀特大惨案的遗址博物馆。在建馆的同时，又在南京城内外日军集体屠杀遗址共建纪念碑17处。

该馆共分为广场陈列、遗骨陈列、史料陈列三个部分。广场陈列由悼念广场、墓地广场和祭奠广场组成，有群雕、立雕、浮雕、标志碑、纪念碑、诗碑、赎罪碑、枯树、断垣残壁、遇难者名单墙、绿树草坪等诸多景观，构成了生与死和悲与愤为主题的纪念性墓地建筑风格。外形为棺椁状的遗骨陈列室内，存放着1985年建馆时从该馆所在地的江东门“万人坑”中挖掘出的部分遇难者遗骨；另一处是1998年新发掘和考证的“万人坑”遇难者遗骨现场，按现场原状原样展示，是侵华日军南京大屠杀的铁证。呈墓穴形状且半地下的史料陈列大厅内，陈列着1000余件珍贵的历史照片、文物、图表和见证资料，配有中英日文字说明，采用灯箱、沙盘、泥塑、油画、复原景观、多媒体触摸屏、电影、电视等陈列手段，再现南京大屠杀的悲惨历史，展示惨绝人寰、震惊世界的真实历史事件，揭露日本军国主义者的血腥暴行。

前事不忘，后事之师。该馆已成为对内进行爱国主义教育，对外宣传、祈祷和平与历史文化交流的重要阵地，先后被团中央、国家教委等六部委命名为“全国青少年教育基地”、“全国中小学爱国主义教育基地”、“全国

爱国主义教育示范基地”，同时被荣获首批“全国精神文明创建工作先进单位”、“全国工会系统外事工作先进单位”等多项殊荣。开馆19年以来，已经累计接待中外观众960多万人次，其中包括日本观众40多万人次。

赴丹麦王国奥尔胡斯市、美国旧金山和日本名古屋、广岛等30多座国际城市，以及北京、上海、武汉、福州、长春、杭州、合肥等国内23座城市举办流动展览，外展观众达100多万人次。

1996年，该馆成立了侵华日军南京大屠杀史研究会，2001年成立了南京日本历史教科书问题研究会，组成了包括美国、德国、日本、韩国、香港、台湾等国家和地区在内的海内外一大批专家学者队伍。自1997年8月主办首次“南京大屠杀史国际学术研讨会”以来，每年8月均举办有针对性的南京大屠杀史学术成果交流会。2002年3月，举办了中、日、韩三国学者参加的首届“历史认知与东亚和平论坛”大型国际学术研讨会。2003年9月，成立“南京国际和平研究所”，开展和平学研究，并在全国高等院校率先开展国际和平学系列讲座。编辑出版了有关南京大屠杀史料书籍和电子出版物40多本。



강인성 (정신대할머니와함께하는시민모임 회원)
 강창일 (국회의원)
 강혜정 (한국정신대문제대책협의회 국제협력위원장)
 권기록 (정신대할머니와함께하는시민모임 운영위원)
 권혁태 (성공회대 교수)
 김경석 (태평양전쟁피해자보상추진협의회 회장)
 김광열 (광운대학교 교수, 한일민족문제학회 회장)
 김성호 (국민연금관리공단 노동조합 위원장)
 김세환 (근로복지공단 노동조합 위원장)
 김소진 (한국노총/전국공공서비스노동조합 여성국장)
 김승하 (한국노총/크라운제과노조 위원장)
 김시원 (한국노총/전국화학노동조합연맹 사무처장)
 김신영 (한국정신대문제대책협의회 교육위원장)
 김영숙 (평화시민연대)
 김영중 (한국노총/국민건강보험공단직장노동조합 사무처장)
 김원웅 (국회의원)
 김인희 (평화시민연대)
 김일배 (한국노총/해태제과노조 위원장)
 김종철 (민주화운동기념사업회 홍보과장)
 김종훈 (한국노총/전국공공서비스노동조합 위원장)
 김창록 (부산대학교 교수)
 김태홍 (국회의원)
 김한중 (한국고원대학교 교수)
 김희선 (국회의원)
 노병준 (한국노총/한국마사회노조 위원장)
 독도수호대
 박경철 (대일역사연구소정착구분국민회의 상임의장)
 박정숙 (노동자영상집단 '희망' 대표)
 박중현 (중경고등학교 교사)
 박진우 (평화시민연대)
 박찬은 (한국정신대문제대책협의회 법률전문위원회)
 박현수 (한국노총/화학노동조합연맹 위원장)

배장일 (한국노총 전국공공서비스노동조합연맹 사무처장)
 성 광 (한국노총/국민건강보험공단직장노동조합 위원장)
 송광호 (국회의원)
 송도자 (한국정신대문제대책협의회)
 송영길 (국회의원)
 신영숙 (한국정신대연구소 연구원)
 신창현 (민족문제연구소 이사)
 안병우 (한신대학교 교수)
 안이정선 (정신대할머니와함께하는시민모임 운영위원)
 양인석 (한국노총/하이트맥주노조 위원장)
 왕현중 (연세대학교 교수)
 윤순녀 (한국정신대문제대책협의회 재정위원장)
 윤태수 (금융노조 조흥지부 위원장)
 이강실 (한국여성단체연합 대표)
 이 건 (민족문제연구소 이사)
 이건행 (일본교과서바로잡기운동본부 감사, 변호사)
 이경식 (한국수자원공사노동조합 위원장)
 이규홍 (한국노동조합총연맹 통일대의협력국장)
 이규희 (평화시민연대)
 이달모 (정신대할머니와함께하는시민모임)
 이병주 (시베리아 사풍회 회장)
 이성순 (한국정신대연구소 소장)
 이수영 (한국노총/롯데제과노조 위원장)
 이순남 (서울대학교 국제대학원 한국학과)
 이승환 (민족화해협력범국민협의회 정책위원장)
 이신철 (역사문제연구소 연구원)
 이익주 (한국교회언론인 대변인)
 이영민 (신진과학교재사 대표)
 이영철 (한국노총/롯데칠성음료노조 위원장)
 이준우 (민족화해운동연합 상임공동의장)
 이현태 (경희대학교 사학과 조교)
 이희자 (태평양전쟁피해자보상추진협의회 대표 유족)

임은숙 (민족문제연구소 이사)
 임종석 (국회의원)
 장동현 (홍사단 사무총장)
 장명재 (전국교직원노동조합대구지부 지부장)
 장완의 (태평양전쟁피해자보상추진협의회 대표)
 장적스님 (조국평화불교협의회)
 전국역사교사모임
 정병국 (국회의원)
 정병호 (한양대학교 교수)
 정복조 (국민연금관리공단 노동조합 위원장)
 정상호 (한국노총/국민건강보험공단직장노동조합 부위원장)
 정숙자 (한국정신대문제대책협의회 공동대표)
 정재욱 (한국노총/서울우유노조 위원장)
 정태호 (한국정신대문제대책협의회 생존자복지위원장)
 정현곤 (민족화해협력범국민협의회 사무처장)
 정현백 (한국여성단체연합 대표)
 정혜경 (한일민족문제학회 연구원)
 조동기 (민족문제연구소 이사)
 조성우 (민족화해협력범국민협의회 상임의장)
 조세열 (민족문제연구소 사무총장)
 조철수 (교육인적자원부 교육연구원)
 주종환 (민족화해운동연합 이사장)
 지영애 (정신대할머니와함께하는시민모임 운영위원)
 지재영 (한국노총/농심노조 위원장)
 최낙훈 (태평양전쟁피해자보상추진협의회 운영위원장 유족)
 최봉태 (정신대할머니와함께하는시민모임 대표)
 최영수 (한국노총/한국자원재생공사노조 위원장)
 최인택 (동아대학교 교수)
 허중문 (한신대학교 교수)
 한국염 (한국정신대문제대책협의회 정책기획위원장)
 한국환 (정신대할머니와함께하는시민모임 운영위원)
 한기모 (구일고등학교 교사)

대회를 함께 일구어낸 역사지킴이! 그리고 고마운 분들!

좋은 공연과 행사를 위해 특별히 큰 도움을 주신
 무당엔터테인먼트(대표 고용국), 정남준(민예총), 조영신(민음협), 성덕여상 '새
 와 올림', 바닷소리, 아름나라합창단, 이덕인(판소리), 가족놀이패 '아리', 김진환
 무용예술단 용오름, 무용가 임응희
 좋은 홍보물과 자료집을 만들어주신 희망기획(대표 최성미), 디자인하루(운영
 실장),
 영화일에 바쁘신 방은진(영화감독), 박정숙(노동자영상사업단 '희망' 대표)
 통일부, 행정자치부, 국가정보원, 서울여성프라자, 서울팔래스호텔, 서대문형무
 소, 경복궁
 언제나 부족한 재정을 선뜻 도와주신 한국마사회(김종필 홍보팀장), 근로복지공
 단노조(김세환 위원장), 수자원공사노조(이경식 위원장), 금융산업노조(이용득
 위원장), 화학노련(김시원 사무처장)

그리고, 가열찬 자원활동으로 행사를 빛내주신
 이은화, 한미란, 이 우, 김준하, 임성숙, 김준교, 시카모토치즈코, 김수연, 김솔아,
 류나영, 이시내, 김미경, 이이다리사, 나루세마리코, 유민영, 조정은, 박진선, 김
 보나, 박세희, 구니요시마미, 유요코님께 깊은 감사를 드립니다.